

科目一覧

【発行日：2021/4/3】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

教職科目	【C6000】	教職入門 [天野 一哉]	春学期	1
教職科目	【C6001】	教職入門 [寺崎 里水]	春学期	2
教職科目	【C6002】	教職入門 [児玉 洋介]	秋学期	3
教職科目	【C6003】	教職入門 [高野 良一]	秋学期	4
教職科目	【C6004】	教育原理 [天野 一哉]	秋学期	5
教職科目	【C6005】	教育原理 [筒井 美紀]	秋学期	6
教職科目	【C6006】	教育原理 [飯窪 真也]	秋学期	7
教職科目	【C6007】	教育原理 [澤里 翼]	春学期	8
教職科目	【C6008】	教育の制度・経営 [植竹 丘]	春学期	9
教職科目	【C6009】	教育の制度・経営 [仲田 康一]	秋学期	10
教職科目	【C6010】	教育の制度・経営 [高野 良一]	秋学期	11
教職科目	【C6011】	教育の制度・経営 [植竹 丘]	秋学期	12
教職科目	【C6012】	教育心理学 [田澤 実]	秋学期	13
教職科目	【C6013】	教育心理学 [輕部 雄輝]	秋学期	13
教職科目	【C6014】	教育心理学 [児玉 茉奈美]	春学期	14
教職科目	【C6015】	教育心理学 [山上 真貴子]	春学期	15
教職科目	【C6016】	教育心理学 [遠藤 裕子]	春学期	16
教職科目	【C6017】	教育心理学 [児玉 茉奈美]	秋学期	17
教職科目	【C6018】	教育課程論 [飯窪 真也]	春学期	18
教職科目	【C6019】	教育課程論 [川津 貴司]	春学期	19
教職科目	【C6020】	教育課程論 [飯窪 真也]	春学期	20
教職科目	【C6021】	教育課程論 [黄 郁倫]	秋学期	21
教職科目	【C6022】	教育課程論 [飯窪 真也]	秋学期	22
教職科目	【C6023】	教育方法論 [岩本 俊一]	春学期	23
教職科目	【C6024】	教育方法論 [松尾 知明]	春学期	23
教職科目	【C6025】	教育方法論 [黄 郁倫]	春学期	24
教職科目	【C6026】	教育方法論 [川津 貴司]	秋学期	24
教職科目	【C6027】	教育方法論 [黄 郁倫]	秋学期	25
教職科目	【C6028】	教育相談 [田澤 実]	春学期	25
教職科目	【C6029】	教育相談 [土屋 弥生]	秋学期	26
教職科目	【C6030】	教育相談 [児玉 茉奈美]	春学期	27
教職科目	【C6031】	教育相談 [山上 真貴子]	秋学期	28
教職科目	【C6032】	教育相談 [遠藤 裕子]	秋学期	29
教職科目	【C6033】	教育相談 [土屋 弥生]	春学期	30
教職科目	【C6034】	道德教育指導論 [土屋 創]	春学期	32
教職科目	【C6035】	道德教育指導論 [田口 賢太郎]	春学期	33
教職科目	【C6036】	道德教育指導論 [渡邊 優子]	秋学期	34
教職科目	【C6037】	道德教育指導論 [田口 賢太郎]	秋学期	35
教職科目	【C6038】	特別活動論 [中村 岳夫]	春学期	36
教職科目	【C6039】	特別活動論 [中村 岳夫]	春学期	37
教職科目	【C6040】	特別活動論 [児玉 洋介]	春学期	38
教職科目	【C6041】	特別活動論 [中村 岳夫]	秋学期	39
教職科目	【C6042】	特別活動論 [森本 扶]	秋学期	40
教職科目	【C6043】	生徒・進路指導論 [岩本 俊一]	春学期	41
教職科目	【C6044】	生徒・進路指導論 [渡部 忠治]	春学期	42
教職科目	【C6045】	生徒・進路指導論 [児玉 洋介]	秋学期	43
教職科目	【C6046】	生徒・進路指導論 [児美川 孝一郎]	秋学期	44
教職科目	【C6047】	生徒・進路指導論 [綿貫 公平]	秋学期	45
教職科目	【C6048】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦]	春学期	46
教職科目	【C6049】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦]	春学期	47
教職科目	【C6050】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦]	秋学期	48
教職科目	【C6051】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦]	秋学期	49
教職科目	【C6052】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広]	春学期	50

教職科目	【C6053】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 春学期	51
教職科目	【C6054】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 秋学期	52
教職科目	【C6055】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 秋学期	53
教職科目	【C6056】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	54
教職科目	【C6057】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	55
教職科目	【C6058】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	56
教職科目	【C6059】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	57
教職科目	【C6060】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	58
教職科目	【C6061】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	59
教職科目	【C6062】	社会・地歴科教育法 [本山 明] 年間	60
教職科目	【C6063】	社会・地歴科教育法 (1) [本山 明] 春学期	61
教職科目	【C6064】	社会・地歴科教育法 (2) [本山 明] 秋学期	62
教職科目	【C6065】	社会・地歴科教育法 [本山 明] 年間	63
教職科目	【C6066】	社会・地歴科教育法 (1) [本山 明] 春学期	64
教職科目	【C6067】	社会・地歴科教育法 (2) [本山 明] 秋学期	65
教職科目	【C6068】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	66
教職科目	【C6069】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	67
教職科目	【C6070】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	68
教職科目	【C6071】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	69
教職科目	【C6072】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	70
教職科目	【C6073】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	71
教職科目	【C6074】	社会・公民科教育法 [八木橋 正之] 年間	72
教職科目	【C6075】	社会・公民科教育法 (1) [八木橋 正之] 春学期	73
教職科目	【C6076】	社会・公民科教育法 (2) [八木橋 正之] 秋学期	74
教職科目	【C6077】	社会・公民科教育法 [八木橋 正之] 年間	75
教職科目	【C6078】	社会・公民科教育法 (1) [八木橋 正之] 春学期	76
教職科目	【C6079】	社会・公民科教育法 (2) [八木橋 正之] 秋学期	76
教職科目	【C6080】	社会・公民科教育法 [松尾 知明] 年間	77
教職科目	【C6081】	社会・公民科教育法 (1) [松尾 知明] 春学期	78
教職科目	【C6082】	社会・公民科教育法 (2) [松尾 知明] 秋学期	79
教職科目	【C6083】	社会・公民科教育法 [松尾 知明] 年間	79
教職科目	【C6084】	社会・公民科教育法 (1) [松尾 知明] 春学期	80
教職科目	【C6085】	社会・公民科教育法 (2) [松尾 知明] 秋学期	81
教職科目	【C6086】	社会・公民科教育法 [石出 法太] 年間	81
教職科目	【C6087】	社会・公民科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	82
教職科目	【C6088】	社会・公民科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	83
教職科目	【C6089】	社会・公民科教育法 [石出 法太] 年間	84
教職科目	【C6090】	社会・公民科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	85
教職科目	【C6091】	社会・公民科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	86
教職科目	【C6092】	商業科教育法 [木村 良成] 年間	87
教職科目	【C6093】	商業科教育法 I [木村 良成] 春学期	88
教職科目	【C6094】	商業科教育法 II [木村 良成] 秋学期	89
教職科目	【C6095】	英語科教育法 I [石原 紀子] 春学期集中	90
教職科目	【C6096】	英語科教育法 (1) [石原 紀子] 春学期	91
教職科目	【C6097】	英語科教育法 (2) [石原 紀子] 春学期	92
教職科目	【C6098】	英語科教育法 I [石原 紀子] 春学期集中	93
教職科目	【C6099】	英語科教育法 (1) [石原 紀子] 春学期	94
教職科目	【C6100】	英語科教育法 (2) [石原 紀子] 春学期	95
教職科目	【C6101】	英語科教育法 II [飯野 厚] 年間	96
教職科目	【C6102】	英語科教育法 (3) [飯野 厚] 春学期	97
教職科目	【C6103】	英語科教育法 (4) [飯野 厚] 秋学期	98
教職科目	【C6104】	英語科教育法 II [飯野 厚] 年間	99
教職科目	【C6105】	英語科教育法 (3) [飯野 厚] 春学期	100
教職科目	【C6106】	英語科教育法 (4) [飯野 厚] 秋学期	101
教職科目	【C6107】	中国語科教育法 I [渡辺 昭太] 春学期集中	102
教職科目	【C6108】	中国語科教育法 (1) [渡辺 昭太] 春学期	104
教職科目	【C6109】	中国語科教育法 (2) [渡辺 昭太] 春学期	105

教職科目	【C6110】	中国語科教育法Ⅱ [渡辺 昭太] 秋学期集中	106
教職科目	【C6111】	中国語科教育法(3) [渡辺 昭太] 秋学期	107
教職科目	【C6112】	中国語科教育法(4) [渡辺 昭太] 秋学期	108
教職科目	【C6113】	情報科教育法Ⅰ [御園生 純] 春学期	109
教職科目	【C6114】	情報科教育法Ⅱ [御園生 純] 秋学期	110
教職科目	【C6115】	教育実習(事前指導) [大栗 健二] 春学期	111
教職科目	【C6116】	教育実習(事前指導) [池田 真澄] 秋学期	112
教職科目	【C6117】	教育実習(事前指導) [丸山 義昭] 秋学期	112
教職科目	【C6118】	教育実習(事前指導) [松尾 知明] 秋学期	113
教職科目	【C6119】	教育実習(事前指導) [寺崎 里水] 秋学期	114
教職科目	【C6120】	教育実習(事前指導) [高野 良一] 秋学期	115
教職科目	【C6121】	教育実習(事前指導) [筒井 美紀] 秋学期	116
教職科目	【C6122】	教育実習(事前指導) [御園生 純] 秋学期	117
教職科目	【C6123】	教育実習(事前指導) [宮坂 健介] 春学期	118
教職科目	【C6124】	教職実践演習 [大栗 健二] 秋学期	119
教職科目	【C6125】	教職実践演習 [池田 真澄] 秋学期	120
教職科目	【C6126】	教職実践演習 [丸山 義昭] 秋学期	121
教職科目	【C6127】	教職実践演習 [松尾 知明] 秋学期	122
教職科目	【C6128】	教職実践演習 [寺崎 里水] 秋学期	123
教職科目	【C6129】	教職実践演習 [高野 良一] 秋学期	124
教職科目	【C6130】	教職実践演習 [筒井 美紀] 秋学期	125
教職科目	【C6131】	教育実習(高) [教育実習担当教員※] 年間	126
教職科目	【C6132】	教育実習(中・高) [教育実習担当教員※] 年間	126
教職科目	【C6133】	人文地理学Ⅰ [片岡 義晴] 春学期	127
教職科目	【C6134】	人文地理学Ⅱ [片岡 義晴] 秋学期	128
教職科目	【C6135】	自然地理学Ⅰ [狩野 真規] 春学期	129
教職科目	【C6136】	自然地理学Ⅱ [狩野 真規] 秋学期	130
教職科目	【C6137】	地誌Ⅰ [山口 隆子] 春学期	131
教職科目	【C6138】	地誌Ⅰ [南 春英] 春学期	131
教職科目	【C6139】	地誌Ⅱ [山口 隆子] 秋学期	132
教職科目	【C6140】	地誌Ⅱ [南 春英] 秋学期	133

教職入門

天野 一哉

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	4年間の学びをイメージする
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第4回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア

第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第14回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
 中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、高等学校学習指導要領（平成21年3月）、
 生徒指導提要（平成22年3月） ※いずれもPDFでダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40%、定期試験：60%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

寺崎 里水

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。

- ①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
- ②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないかが理解できること。
- ③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。

教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。

課題提出やそのフィードバックは授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：4年間の学びのイメージ	職業を選択すること、教職を選択すること
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第4回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第14回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。

教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読みたり調べたりしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省） ※PDFでダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

具体的には、提出課題の内容：50%、試験：50%で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめる必要があります。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】

教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

児玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、毎回の授業での課題コメント（WEB 提出）を次回授業で活用しながら、授業内容への主体的な関わりを大切に授業をすすめたい。

大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	職務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いつつ、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。

第 13 回 地域・家庭・多様な専門家との連携 子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。

第 14 回 まとめ：変わる学校、学び続ける教師 人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示 文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50%）とを総合的に見る。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさねながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

なお、原則は対面授業ですが、コロナ感染症等の状況では変更、ZOOM との併用もあり得ます。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：免許・養成・採用の制と 4 年間の学び	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教職の捉え方（特徴）	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の 3 要素
第 3 回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマの中の教師
第 4 回	教師の成長と学び	「学び続ける教師」、「反省的実践家」、教師養成「改革」
第 5 回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第 6 回	教育指導の全体像	教育指導の 4 分野、教師の指導文化、教員評価
第 7 回	特別活動と部活の指導：職務内容①	「教育課程」としての特別活動、課題活動の部活、指導とハラスメント
第 8 回	職務内容②：教科指導（道徳を含む）	学習指導要領改訂、教科の変更点、「特別の教科」の道徳
第 9 回	職務内容③：生徒・生活指導	生徒指導の日本の特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容④：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業指導から進路指導へ、キャリア教育
第 11 回	職務内容⑤：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第 13 回	多様な関係者との連携	「チーム学校」、コミュニティ・スクール、親・住民の学校参加
第 14 回	まとめ：「学び続ける教師」	「学び続ける教師」、教職履修の計画化、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

藤本典裕『新版（改訂二版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：30 % 程度、修了試験：70 % 程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

天野 一哉

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現任教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価

- 第 12 回 プレゼンテーション① 第 11 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回 プレゼンテーション② 第 11 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回 総まとめ 全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」：40 %、レポート（またはプレゼンテーション）：60 % で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

筒井 美紀

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形式】

・2020年度は履修者が50人未満(40数名)だったので、2021年度は原則対面実施対象の科目となりましたが、履修者数や教室容量、コロナ状況を総合的に考慮し、zoomによるオンライン授業に切り替える可能性もあります。
・第1回の授業では、教室に来て下さい。

【授業の進め方】

授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、授業支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行なう。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷き。テキスト第1章第1・2節、第4章第1節）
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷き。テキスト第1章第3節）
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷き。テキスト第4章第1節）
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第2章第1～3節）
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第3章第1～3節）
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第3章第4節）

第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷き。テキスト第3章第4節）
第9回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷き。テキスト第4章第2～3節）
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？——公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？——児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第12回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	PISA型学力と各国の教育コンテキスト
第13回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？——「否定」の困難を中心に
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基礎的な諸概念を中心に総まとめ。筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出の課題 24%（2×12回）、期末論述試験 76%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion on the current educational issues

教育原理

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回の授業時に行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第9回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それをを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。

授業への参加姿勢 30%、リアクションペーパー 30%、授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

澤里 翼

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的な諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こと」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第9回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループの担当箇所について調べ、発表してもらいます。最低1回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニシスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（各回提出してもらいアクションペーパー） 10 %

小テスト 10 %

授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション） 40 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

・授業に出席の際にはマスクの着用をお願いします。

・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

植竹 丘

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
 藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
 藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
 疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第21条第2項の規定に基づき、一単位時間あたり最低4.5時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

仲田 康一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第3回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第4回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第6回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認～特に貧困・格差等
第7回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第8回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第9回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第10回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第11回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第13回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に関わった学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の再読、意見の言語化。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40%程度）、定期試験（60%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記入を求めたが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心を呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。なお、授業は原則的に対面ですが、コロナ感染症等へ対応で変更、ZOOM との併用になることもあります。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の1～3条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教法と学校
第 5 回	教育内容行政	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政と無償制	無償制、国庫負担金・補助金、「受益者負担」、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	教師・学校の危機管理・安全対策	危機管理・安全対策「元年」、学校保健安全法、3・11の教訓
第 13 回	「チームとしての学校」	「チーム学校」政策、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、「働き方改革」
第 14 回	学校と地域の連携	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

【参考書】

本図愛実・末富芳編著『新・教育の制度と経営【三訂版】』学事出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（30%程度）、定期試験（70%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながらか、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

植竹 丘

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
 藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
 藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
 疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

田澤 実

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第7回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第9回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第10回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第11回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第12回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第13回	発達障害の理解	3つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第14回	発達障害の支援・指導	3つの発達障害の具体的特徴を踏まえた学習支援と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップロードする。各自で印刷して持参する。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や試験結果を踏まえ、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

軽部 雄輝

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で以下の4つのトピックを扱う。

- 【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第2回～第5回）
 - 【学習】：幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を踏まえた学習を支える指導（第6回～第10回）
 - 【パーソナリティ】：幼児、児童及び生徒の特徴を理解するときの視点（第11回～第12回）
 - 【臨床】：特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第13回～第14回）
- なお、各回の授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第3回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第5回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と、アイデンティティとの関連について紹介する。
第6回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第7回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気メカニズムについて理解する。
第9回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第10回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第11回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第12回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第13回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第14回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著） 2012 『実践につながる教育心理学』北樹出版

櫻井茂男（編） 2017 『改訂版のしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化

吉川成司・関田和彦・鈞治雄（編著） 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』ミネルヴァ書房

子安増生ら 2015 『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。

講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉 茉奈美

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達理論	ピアジェやフロイト、エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第3回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第4回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する。
第5回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第6回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第8回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第9回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第10回	学級集団	教師と子どもや、子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第11回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第12回	発達障がい理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第13回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第14回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校やLGBTQの特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、参考書該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕 有斐閣（2090円）

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200円）

児玉佳一（編）（2020）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、リアクションペーパー 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業で、配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため、学期末まで掲示したままとする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

山上 真貴子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第2回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第3回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第4回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第5回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第6回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第7回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第8回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第9回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第10回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第11回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第12回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第13回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第14回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに課題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに事前に授業資料をアップします。初回はこちらで印刷・配布しますが、2回目以降は原則として、各自印刷して授業にご持参下さい。

【参考書】

鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣アルマ
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応していきたいと思っておりますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もありますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

遠藤 裕子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。

講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができるようにします。

オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。

第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100円＋税
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気での授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉 茉奈美

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育現場で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達理論	ピアジェやフロイト、エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第3回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第4回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する。
第5回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第6回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第8回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第9回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第10回	学級集団	教師と子どもや、子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第11回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第12回	発達障がい理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第13回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第14回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校やLGBTQの特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】 次回の授業内容について、参考書該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

【復習】 レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300円＋税）
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕 有斐閣（2090円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %，リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業にて、配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため、学期末まで掲示することとする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

川津 貴司

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	P D C A サイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（50%）、発表の内容（30%）、最終レポート（20%）をもとに総合的に評価する。
定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは今回の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論ーコンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40%）、課題（20%）、授業内試験（40%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史の変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方について理解する。

【到達目標】

21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂のポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本における特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年

秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %

ホームワーク 20 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40%）、課題（20%）、授業内試験（40%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

岩本 俊一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

教育方法論

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

教育方法論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

教育方法論

川津 貴司

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

教育方法論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

教育相談

田澤 実

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・学校における教育相談の意義と理論
 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
 ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して扱うテーマや内容に一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

土屋 弥生

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったテストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第 1 回「ガイダンス」

事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。

・第 2 回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 3 回「青年期の発達」

事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 4 回「成人期の発達」

事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 5 回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。

・第 6 回「カウンセリングの技法」

事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。

・第 7 回「教育相談の進め方」

事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。

・第 8 回「非行に関する相談」

事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 9 回「いじめに関する相談」

事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 10 回「不登校に関する相談」

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 11 回「発達障害に関する相談」

事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 12 回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 13 回「虐待に関する相談」

事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 14 回「外部機関との連携」

事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、課題および期末レポート（60%）、平常点（10%）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

児玉 茉奈美

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、子どもの理解とかかわりの基本的な視点、子どもが現実にかかえる不適應の問題、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
- ・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で、子どもの対人関係の発達について説明する。
第 3 回	不適應の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適應とつまずきを理解し、子どもとのかかわりを考える。
第 4 回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する。
第 5 回	精神障害	不安障害やうつ病、統合失調症、摂食障害について説明する。
第 6 回	発達障がい	自閉症スペクトラムや ADHD、LD について説明する。
第 7 回	不登校	不登校の子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 8 回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 9 回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 10 回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため、その背景や支援について説明する。
第 11 回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという 3 つのアセスメント方法について説明する。
第 12 回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法、クライアント中心療法といった、カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第 13 回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	教員同士だけではなく、保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、テキスト該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジユメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒田祐二（2018） 実践につながる教育相談 北樹出版 （2100 円）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業で、復習のため資料の掲示期間を長くしてほしいという要望があった。そのため、配布資料の掲示は授業期間終了までとする予定である。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

山上 真貴子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的の事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。
 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？一困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 6 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 7 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 8 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 9 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 10 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 11 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をやる人？
第 12 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 13 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、事前に授業支援システムにアップした資料を使用する。初回はこちらで印刷・配布するが、原則として第 2 回以降は各自印刷して持参するようにして下さい。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

試験（40％）、レポート（30％）、積極的参加（30％）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業中にフィードバックを行います。

昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応していきたいと思っておりますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップしますので、必ず事前に印刷してきて下さい。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もありますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

遠藤 裕子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを旨とする。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にしながら授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。

オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第1回～第4回）

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

2. 【教育相談の方法】（第5回～第6回）

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識

3. 【教育相談の展開】（第7回～第14回）

・幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。

第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

「教育相談の理論と方法」 会沢信彦編著 北樹出版
文部科学省 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

土屋 弥生

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第 1 回「ガイダンス」	事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
	事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」	事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」	事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」	事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」	事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」	事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
	事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」	事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
	事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「非行に関する相談」	事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」	事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「不登校に関する相談」	事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」	事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」	事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」	事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」	事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
	事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら(編)2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
 文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
 文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
 厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
 内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、課題および期末レポート（60%）、平常点（10%）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

道徳教育指導論

土屋 創

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあつて、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心として授業を進める。適宜 DVD 等の視聴覚資料を用いるとともに、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントシート等の内容を紹介し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方に関するガイダンスを行うとともに、道徳教育を学ぶ意義について考察する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題—「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、「道徳の教科化」をめぐる議論、「評価」のあり方について検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前および戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	「心の教育」をめぐる議論について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「いのちの教育」、「死の教育」について検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	「人権教育」の視点から道徳教育のあり方を検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論について検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験と自己の変容、教育の限界点について考察する。
第 9 回	情報モラル	情報モラルおよび情報モラルに関する実践について検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の意義と、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の分類等、指導案作成に関する諸事項について検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業内にて資料を配付し、参考文献を紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の能動的な学びや考察を促すことができるよう、ディスカッションやフィードバックの方法について工夫する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

田口 賢太郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。

また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第 3 回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第 7 回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第 9 回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。

授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」

文部科学省「中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」2017 年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）

井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）

このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60％）と 1 4 回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

渡邊 優子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。また、授業の前半で、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義について検討する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置付け、道徳の教科化、その評価などについて検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。
第 5 回	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。
第 6 回	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第 8 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 9 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の仕方など、指導案作成のポイントについて検討する。
第 10 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第 11 回	情報モラルについて	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第 12 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて授業中に資料を配布、参考文献を紹介する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?』（日本図書センター、2011 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する道徳の学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションを実施する際には、履修者が活動しやすいように授業の展開において工夫する。授業中に実施するワークのねらい等を示すことで、履修者自身による能動的な学びをサポートする。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

田口 賢太郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。

また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第 3 回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第 7 回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第 9 回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。

授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」

文部科学省「中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」2017 年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）

井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）

このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60％）と 1 4 回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質について理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法 ～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

児玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、一時限目の通学時の混雑等に配慮し、動画配信を併用するなど、状況に対応した形態をとる。学生同士の学び合いが充実するよう、授業コメントの活用を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第 2 回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第 3 回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学級、学校行事、儀式等の成立と役割。学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第 5 回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第 6 回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第 7 回	話し合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第 8 回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第 9 回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第 10 回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第 11 回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位位置。部活動の今日的課題と将来展望。
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通した「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版 文部科学省）

※ PDF でダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50 %）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50 %）を総合的に見る。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質について理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

森本 扶

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	シテイズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

生徒・進路指導論

岩本 俊一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。課題等を課した場合にはその提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

渡部 忠治

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明・紹介する。続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて

- 第 13 回 進路指導・キャリア教育 体験的な学びの事前・事後指導の育におけるキャリア・大切さと留意点について
カウンセリングの役割と方法
- 第 14 回 進路指導・キャリア教育 アンケートや学習活動の振り返りにおけるキャリア・記録を将来の生き方につなげる
パスポートの活用 指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40 %、試験（小論文）60 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。

学生同士の学びあいが充実するよう、授業内容へのコメントを活用した意見交流を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第 2 回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりや教育課程上の位置づけ。
第 3 回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第 4 回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対応）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トレランス」
第 7 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第 9 回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第 10 回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとっての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。

第 14 回 進路指導・キャリア教育 学校での「学び」と「ポートフォリオ」におけるポートフォリオの活用 進路指導論のまとめもふくめて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回予定している課題レポート作成に必要な調査・研究をふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

『生徒指導提要』（文部科学省）
『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50%）を総合的に見る。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児美川 孝一郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。

講義を軸にしつつも、参加者全員によるディスカッションやグループディスカッションを適宜交える。

提出されたりアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、今回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年

藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年

『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、試験またはレポート 60 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

綿貫 公平

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。

次にその話題について感想・意見の交換。

最後にリアクションペーパーの提出。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業者のコメントとともに掲載した「講義通信」を発行し、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	講義計画とその概要説明、講義アンケート
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさが必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際、適宜指示する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社、2014 年
 教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社、2013 年
 土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店、2014 年
 『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）70 %、試験 30 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは、意見交換を望む声が多い。意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと的小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時間数、他教科との関連）	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校的学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例（社会科学系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科学との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第 10 回	指導案作成の実践的学習（1）	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第 11 回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ

- 第 12 回 指導案改善の実践的学習（2） 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
- 第 13 回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
- 第 14 回 試験・まとめと解説 試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指導案の作成は授業時間外で行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
 文部科学省の HP で見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 文部科学省（2008 / 2009）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20 %、最終提出の授業計画案（授業指導案）30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1 単位時間（1 授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。
 指導案の作成時は PC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることとなります。
 シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をする場合があります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (ねらいと目標、進め方)	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewey, J. の唱えた <i>Laening by doin, Learning through doing</i> はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校的学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。

第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第 10 回	指導案作成の実践的学習（1）	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第 11 回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ
第 12 回	指導案改善の実践的学習（2）	前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
第 13 回	授業指導案の発表と講評	授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指導案の作成は授業時間外で行っていただきます。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
 文部科学省の HP で見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 文部科学省（2008 / 2009）『中学校 / 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20 %、最終提出の授業計画案（授業指導案）30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1 単位時間（1 授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。指導案の作成時は PC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることとなります。

シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校の学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティブ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティブ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第 10 回	指導案作成の実践的学習（1）	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第 11 回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ。

第12回	指導案改善の実践的学習(2)	前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
第13回	授業指導案の発表と講評	授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
第14回	試験・まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指導案の作成は授業時間外で行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省（2008 / 2009）『中学校 / 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20％、最終提出の授業計画案（授業指導案）30％、期末試験50％

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的にやっていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。
指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。
シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	教育目標、授業回数、他の教科との関連
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校の学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第5回	アクティブ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティブ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第7、8回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第10回	指導案作成の実践的学習(1)	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第11回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ

- 第12回 指導案改善の実践的学習 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
- 第13回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
- 第14回 試験・まとめと解説 試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指導案の作成は授業時間外で行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省（2008 / 2009）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20％、最終提出の授業計画案（授業指導案）30％、期末試験50％

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。
指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。
シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students' grades.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態が変更されることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業の形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑からなり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的な授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校社会科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校地歴科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校の現実的な課題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこよう。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題について取りあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態が変更されることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業の形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑からなり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的な授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校社会科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校地歴科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校の現実的な課題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこよう。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

本山 明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	SDG s の授業について 高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	SDG s の授業について 中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）（11 回に統合）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）（12 回に統合）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計（1）：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計（2）：教材の探し方と問の作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習してくること。②夏季休業中における課題の作成。＊必須③宿題＊必須
＊必須の提出ができないときは単位修得困難。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業支援システムで受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー
授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業についての建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用するときは事前に連絡をする。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業の後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の教員としての経験がある。現場の感覚に近い授業方法が修得できる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 7 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に対する建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用する場合は事前に連絡する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

本山 明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	SDG s の授業について 高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	SDG s の授業について 中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）（11 回に統合）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）（12 回に統合）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計（1）：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計（2）：教材の探し方と問の作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習しておくこと。②夏季休業中における課題の作成。※必須③宿題※必須
※必須の提出ができないときは単位修得困難。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業支援システムで受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー
授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業についての建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用するときは事前に連絡をする。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業の後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の教員としての経験がある。現場の感覚に近い授業方法が修得できる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 7 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に対する建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用する場合は事前に連絡する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説をおこなう。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑となる。提出物・レポート、試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況によって授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勸励と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題について取りあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
 ・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説をおこなう。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑となる。提出物・レポート、試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況によって授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勸諭と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
 ・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・公民科教育法

八木橋 正之

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、レポートや課題については授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第2回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第3回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第4回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第5回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第6回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第7回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第8回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第9回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第10回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第11回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第12回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第13回	実践研究及び授業評価の視点	実践研究及び授業評価の視点
第14回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れ－地理的分野・歴史的分野との関連
第15回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第16回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について－中学公民的分野との関連
第17回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第18回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第19回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について－憲法学習を中心に
第20回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第21回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・社会	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第22回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第23回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第24回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理、環境倫理を中心に

第 25 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第 26 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原則を中心に
第 27 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第 28 回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第 2 回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第 3 回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第 4 回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第 5 回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第 6 回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第 7 回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第 8 回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第 9 回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第 10 回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第 11 回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第 12 回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第 13 回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第 14 回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、課題（40％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第2回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について－中学公民的分野との関連
第3回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第4回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第5回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について－憲法学習を中心に
第6回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第7回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第8回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第9回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第10回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理、環境倫理を中心に
第11回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第12回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第13回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第14回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのかを意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（学習指導案の作成及び発表等を含む）（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

八木橋 正之

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、レポートや課題については授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第2回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第3回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第4回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第5回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第6回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第7回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第8回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第9回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第10回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第11回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第12回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第13回	実践研究及び授業評価の視点	実践研究及び授業評価の視点
第14回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第15回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第16回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標についてー中学公民的分野との関連
第17回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第18回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第19回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標についてー憲法学習を中心に
第20回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第21回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと経済・社会	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第22回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第23回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第24回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理についてー生命倫理、環境倫理を中心

第25回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第26回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第27回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第28回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」臼井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第 2 回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第 3 回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第 4 回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第 5 回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第 6 回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第 7 回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第 8 回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第 9 回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第 10 回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第 11 回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第 12 回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第 13 回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第 14 回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、課題（40％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第 2 回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について－中学公民的分野との関連
第 3 回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第 4 回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第 5 回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について－憲法学習を中心に
第 6 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第 7 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第 8 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第 9 回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第 10 回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理、環境倫理を中心に
第 11 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第 12 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第 13 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第 14 回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのかを意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（学習指導案の作成及び発表等を含む）（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

松尾 知明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
17	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
20	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	実践研究 発表(1)
21	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
22	実践研究	主権者教育
23	学習指導案の検討	検討と準備
24	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
25	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
26	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。教材研究や学習指導案の作成を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(1)では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。なお、受講希望者は、オリエンテーションでグループ分けを行うので、第1回目の授業に必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示をする。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、課題（40%）、テスト（30%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークをさらに工夫する。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法 (2)

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(2)では、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
3	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
4	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
5	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
6	中学校社会・公民科授業実践の課題	実践研究 発表(1)
7	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
8	実践研究	主権者教育
9	学習指導案の検討	検討と準備
10	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
11	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
12	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
13	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
14	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業においてを指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

松尾 知明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
17	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
20	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	実践研究 発表(1)
21	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
22	実践研究	主権者教育
23	学習指導案の検討	検討と準備
24	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
25	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
26	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。教材研究や学習指導案の作成を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(1)では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。なお、受講希望者は、オリエンテーションでグループ分けを行うので、第1回目の授業に必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示をする。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、課題（40%）、テスト（30%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークをさらに工夫する。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法 (2)

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(2)では、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
3	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
4	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
5	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
6	中学校社会・公民科授業実践の課題	実践研究 発表(1)
7	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
8	実践研究	主権者教育
9	学習指導案の検討	検討と準備
10	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
11	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
12	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
13	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
14	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業においてを指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚教材・情報機器等を介した能動的な学習となる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—授業の進め方の確認	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	戦前の社会科の歴史をたどる—教育勅諭と修身	明治以降の近代化の中で学制から教育勅諭の発布までを学ぶ。
3	戦前の社会科の歴史をたどる—大正期の教育と公民科の成立	明治から大正期までの教育をおさえ、国定教科書の果たした役割を考える。
4	戦前の社会科の歴史をたどる—皇国民の育成と国民科	戦争と靖国、国民学校などの教育を学ぶ。
5	植民地と教育—朝鮮・台湾・占領地での皇民化教育	大日本帝国の中における戦前の社会科の歴史をたどる。
6	敗戦と教育—修身と公民科	敗戦が何をもたらしたのか、修身を総括し公民科の構想などを社会科前史として学ぶ。
7	日本国憲法と社会科の成立	社会科成立の経過、とくに憲法との関わり、学習指導要領の成立などを学ぶ。
8	社会科のあゆみ—社会科の解体	戦後の社会の変化と学習指導要領の変遷から学ぶ。
9	現在の社会科—社会科と公民科と地歴科	現学習指導要領の内容や課題について学ぶ。
10	公民科について	中学校社会科の公民、高等学校の公民科の成立とその内容を学ぶ。
11	社会科・公民科の授業実践研究①—中学	社会科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
12	社会科・公民科の授業実践研究②—高校	公民科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
13	学習指導案の作成について演習	指導計画・学習指導案の作成方法などについて演習を行う。夏季課題の説明。
14	春学期の授業のまとめ・確認試験を含む	春学期の授業について総括する。いくつかのテーマについて試験を授業時間内に作成する。
15	秋学期の授業予定の確認・夏季課題の学習指導案の講評・検討	夏季課題の学習指導案を取り上げ、具体的に改善点を示し受講生と共に検討する。
16	模擬授業に向けての実践授業研究	社会・公民科の一つの授業実践をとりあげて検討する。
17	学習指導案の検討・模擬授業の予備知識および授業準備の確認	学習指導案作成上の留意点を確認する。模擬授業に関する全体的な課題について説明する。
18	模擬授業の準備のための演習	前回の学習成果をふまえ、模擬授業実施上の留意点を全体で確認し、班ごとに模擬授業の準備を行う。
19	模擬授業①—社会科	人権と日本国憲法について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。

20	模擬授業②—社会科	人権と共生社会について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
21	模擬授業③—社会科	現代の民主政治について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
22	模擬授業④—公民科	消費生活と経済について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
23	模擬授業⑤—公民科	資源・エネルギー問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
24	模擬授業⑥—公民科	戦争と平和の問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
25	模擬授業に関するまとめの演習①—社会科	各班の模擬授業について中学社会科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
26	模擬授業に関するまとめの演習②—公民科	各班の模擬授業について高校公民科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
27	社会科・公民科の授業の方法-多極化する国際関係と多様なナショナリズムをどうとらえるか	公民科の教材として、現代の国際関係論・ナショナリズム論の基本を学ぶ。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ②各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ③毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。
- ④本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

授業時に適宜指示する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、授業時の感想・レポート・学習指導案（30％）、二回の試験（60％）をもとに総合的に勘案して評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

広い視野や異なる視点から学ぶことを考えると、この「社会・公民科教育法」を履修した場合には、他の担当者の「社会・地歴科教育法」の履修が望ましい。授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義や視覚教材による学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
第3回	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中で公民科について学ぶ。
第4回	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
第5回	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
第6回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
第7回	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
第8回	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
第9回	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
第10回	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
第11回	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
第12回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第13回	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第14回	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポート試験の作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30％）、試験（60％）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点に立った実際に役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。授業においては模擬授業、発表、討議などが中心となる。さらに講義などの補足もおこなわれ、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
第 2 回	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
第 3 回	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
第 4 回	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
第 5 回	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
第 6 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
第 7 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
第 8 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
第 9 回	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
第 10 回	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題に考える。
第 11 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
第 12 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
第 13 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
第 14 回	授業のまとめ・確認テスト	授業をふりかえりレポート試験を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校「学習指導要領」については、該当部分を必ず予習しておくこと。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。

・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・学習指導案・模擬授業（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材・情報機器等を介した能動的な学習となる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—授業の進め方の確認	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	戦前の社会科の歴史をたどる—教育勅語と修身	明治以降の近代化の中で学制から教育勅語の発布までを学ぶ。
3	戦前の社会科の歴史をたどる—大正期の教育と公民科の成立	明治から大正期までの教育をおさえ、国定教科書の果たした役割を考える。
4	戦前の社会科の歴史をたどる—皇国民の育成と国民科	戦争と靖国、国民学校などの教育を学ぶ。
5	植民地と教育—朝鮮・台湾・占領地での皇民化教育	大日本帝国の中における戦前の社会科の歴史をたどる。
6	敗戦と教育—修身と公民科	敗戦が何をもたらしたのか、修身を総括し公民科の構想などを社会科前史として学ぶ。
7	日本国憲法と社会科の成立	社会科成立の経過、とくに憲法との関わり、学習指導要領の成立などを学ぶ。
8	社会科のあゆみ—社会科の解体	戦後の社会の変化と学習指導要領の変遷から学ぶ。
9	現在の社会科—社会科と公民科と地歴科	現学習指導要領の内容や課題について学ぶ。
10	公民科について	中学校社会科の公民、高等学校の公民科の成立とその内容を学ぶ。
11	社会科・公民科の授業実践研究①—中学	社会科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
12	社会科・公民科の授業実践研究②—高校	公民科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
13	学習指導案の作成について演習	指導計画・学習指導案の作成方法などについて演習を行う。夏季課題の説明。
14	春学期の授業のまとめ・確認試験を含む	春学期の授業について総括する。いくつかのテーマについて試験を授業時間内に作成する。
15	秋学期の授業予定の確認・夏季課題の学習指導案の講評・検討	夏季課題の学習指導案を取り上げ、具体的に改善点を示し受講生と共に検討する。
16	模擬授業に向けての実践授業研究	社会・公民科の一つの授業実践をとりあげて検討する。
17	学習指導案の検討・模擬授業の予備知識および授業準備の確認	学習指導案作成上の留意点を確認する。模擬授業に関する全体的な課題について説明する。
18	模擬授業の準備のための演習	前回の学習成果をふまえ、模擬授業実施上の留意点を全体で確認し、班ごとに模擬授業の準備を行う。
19	模擬授業①—社会科	人権と日本国憲法について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。

20	模擬授業②—社会科	人権と共生社会について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
21	模擬授業③—社会科	現代の民主政治について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
22	模擬授業④—公民科	消費生活と経済について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
23	模擬授業⑤—公民科	資源・エネルギー問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
24	模擬授業⑥—公民科	戦争と平和の問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
25	模擬授業に関するまとめの演習①—社会科	各班の模擬授業について中学社会科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
26	模擬授業に関するまとめの演習②—公民科	各班の模擬授業について高校公民科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
27	社会科・公民科の授業の方法-多極化する国際関係と多様なナショナリズムをどうとらえるか	公民科の教材として、現代の国際関係論・ナショナリズム論の基本を学ぶ。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ②各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ③毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。
- ④本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

授業時に適宜指示する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、授業時の感想・レポート・学習指導案（30％）、二回の試験（60％）をもとに総合的に勘案して評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

広い視野や異なる視点から学ぶことを考えると、この「社会・公民科教育法」を履修した場合には、他の担当者の「社会・地歴科教育法」の履修が望ましい。授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義や視覚教材による学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
第3回	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中で公民科について学ぶ。
第4回	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
第5回	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
第6回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
第7回	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
第8回	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
第9回	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
第10回	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
第11回	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
第12回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第13回	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第14回	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポート試験の作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30％）、試験（60％）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点に立った実際に役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。授業においては模擬授業、発表、討議などが中心となる。さらに講義などの補足もおこなわれ、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
第2回	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
第3回	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
第4回	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
第5回	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
第6回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
第7回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
第8回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
第9回	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
第10回	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題に考える。
第11回	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
第12回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
第13回	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
第14回	授業のまとめ・確認テスト	授業をふりかえりレポート試験を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校「学習指導要領」については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・学習指導案・模擬授業（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

商業科教育法

木村 良成

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春・秋学期の授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みてみる。秋学期は、そのような商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に重点をおいてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	(1) 基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	(2) 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
5	教科商業の科目について	(3) 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	(4) 発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育

19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育
20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育
21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的变化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的变化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	(1) 教材研究の方法にあたって
27	授業を行うにあたっての留意点	(2) 板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	(3) 50分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）〈授業時必携〉

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』〈最新版〉
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』〈最新版〉
他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
この授業の成績評価は、春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート）、授業中の学習態度、出席率などを総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】
1 2 桁電卓

【その他の重要事項】
簿記・会計が理解できていること。

【Outline and objectives】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, historical development of commercial education after the World War II, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

商業科教育法 I

木村 良成

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず最初に授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

次に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
第 2 回	商学と商業学の違いについて	学問の違い
第 3 回	教科商業の科目について	(1) 基礎科目（実際の科目についての説明）
第 4 回	教科商業の科目について	(2) 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
第 5 回	教科商業の科目について	(3) 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
第 6 回	教科商業の科目について	(4) 発展科目（実際の科目についての説明）
第 7 回	商業教育の特質	普通高校との相違
第 8 回	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
第 9 回	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
第 10 回	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
第 11 回	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
第 12 回	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
第 13 回	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
第 14 回	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）〈授業時必携〉

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』〈最新版〉
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』〈最新版〉

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、定期試験（またはレポート）＜40％＞、授業中の学習態度＜30％＞や履修状況など＜30％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁計算機

【その他の重要事項】

簿記・会計が理解できていること。

必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修すること。（その後、「商業科教育法Ⅱ」を履修することとする。）

【Outline and objectives】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.

商業科教育法Ⅱ

木村 良成

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになることを主眼とし、商業科の一教員として最大限身につけておくように学習活動を行う。講義一辺倒にならぬように、学生主体の授業を行う。

【到達目標】

商業科教育法Ⅰの授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育の科目の違いについて学習した。今回は当該科目の教育方法についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

秋学期においては、今まで学習していた商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

ここでも、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

課題解決的な学習や模擬授業、現職教員を招いての講演会を行う。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代商業教育の実状と問題点及び課題と解決	課題と解決方法について探る
第 2 回	今後の商業教育の動向について、将来の商業科教育を模索	将来の商業科教育を模索し、考える
第 3 回	近代商業教育制度の創設—室町時代から江戸時代	室町時代から江戸時代における教育体系
第 4 回	明治時代の商業教育—明治時代初期における学制を中心とした教育	明治時代初期における学制を中心とした教育（森有礼の存在）
第 5 回	学制の発布とその創成期—教育令や商業学校通則に従った商業教育	教育令や商業学校通則に従った商業教育（その他実業学校との比較）
第 6 回	明治時代中期以降の商業教育—実業学校令における商業教育	実業学校令における商業教育での進展
第 7 回	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育—大正期における商業教育の絶頂期	大正期における商業教育の栄光の絶頂期
第 8 回	第二次世界大戦中の—商業教育の危機	商業教育の危機とその現状
第 9 回	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化—高度経済成長期までの商業教育の成長	高度経済成長期までの商業教育の成長
第 10 回	商業教育の体系的変化—高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）	高度経済成長以降の低成長及びバブル経済下における商業教育の質的変化
第 11 回	実際に行われている商業教育の現場から（担当：商業科高等学校教員を招聘）	高等学校商業科に勤務している教員を招聘しての講演
第 12 回	授業を行うにあたっての留意点（1）教材研究の方法と情報機器の活用方法	教材研究の方法にあたって
第 13 回	授業を行うにあたっての留意点（2）板書例と黒板の書き方	板書例と黒板やホワイトボード、電子黒板の使用法

第14回 授業を行うにあたっての留意点 (3) 50分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

—

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』最新版

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』最新版

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に係る参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、定期試験（またはレポート）＜40％＞、授業中の学習態度＜30％＞や履修状況など＜30％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁計算機

【その他の重要事項】

必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修してから、この「商業科教育法Ⅱ」履修のこと。

【Outline and objectives】

Based on the knowledge and skills of Commercial Education I, this class aims to gain basic teaching skills for commercial education. Historical development of commercial education after the World War II, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

英語科教育法Ⅰ

石原 紀子

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各回授業の前半は、主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。各回授業の後半は、理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回授業の前半では主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。後半は理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通じて一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	英語学習経験、英語教員の資質	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第3回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第4回	発音・文字指導	効果的な発音・文字指導、模擬授業
第5回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第6回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第7回	授業準備・授業案	授業計画と授業準備
第8回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表指導、模擬授業
第9回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム、英語運用能力とインタラクション
第10回	リーディング指導	効果的なリーディング指導、模擬授業
第11回	学習者論	自律的学習と学習方略
第12回	ライティング指導	効果的なライティング指導、領域統合型の指導、模擬授業
第13回	ことばと文化	多文化・異文化理解、語用論的指導
第14回	語彙・表現指導	効果的な語彙・表現指導、模擬授業
第15回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第16回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第17回	指導案	指導案の構成・内容
第18回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第19回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第20回	中学校での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第21回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法、模擬授業
第22回	高等学校での指導	高等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第23回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第24回	小学校での英語教育	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第25回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第26回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第27回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・チーム・ティーチング
第28回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備・復習時間は、各週計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参加/貢献度 (20%) *
- 2) 省察レポート (2) (40%)
- 3) 模擬授業 (20%) とその省察 (10%)
- 4) その他の課題 (10%)

*授業への参加を重視するため、授業6コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となる。

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ英語でも指導ができるようにするためこの授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手な学生でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The first half of each course meeting provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. The second half of each course meeting focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics are directly linked to classroom instruction, including: the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法（1）

石原 紀子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（2）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。個々のレポートに対する評価とフィードバックは、Google Classroom を通して一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第3回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第4回	授業準備	授業準備と授業計画
第5回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム・英語運用能力とインタラクション
第6回	学習者論	学習スタイルと学習方略
第7回	ことばと文化	ことばと文化、異文化理解・語用論的指導
第8回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第9回	指導案	指導案の構成・内容
第10回	教材研究	教材の特徴と評価、ICTの活用
第11回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第12回	早期外国語教育	早期外国語教育・イメージ教育の仕組みと効果
第13回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第14回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・効果的なティーム・ティーチング・まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加貢献度 (30%)
省察レポート (2) (60%)
その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans.

英語科教育法（2）

石原 紀子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニケーションな英語科教育のための 4 領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（1）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 2 回	学習指導要領、発音・文字指導	学習指導要領の変遷と内容、効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 3 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 4 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表の指導、模擬授業
第 5 回	リーディング指導	効果的な文字・リーディング指導、模擬授業
第 6 回	ライティング指導	効果的なライティング指導・領域統合型の指導、模擬授業
第 7 回	語彙指導	効果的な語彙指導、模擬授業
第 8 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 9 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 10 回	中学での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 11 回	高等学校での指導	高等学校での英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 12 回	小学校での指導	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 13 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 14 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加貢献度 (20%) *
省察レポート (2) (40%)
レッスン・プラン、模擬授業 (30%) とその省察 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics include the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法 I

石原 紀子

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各回授業の前半は、主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。各回授業の後半は、理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回授業の前半では主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。後半は理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に関覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第 2 回	英語学習経験、英語教員の資質	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 3 回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第 4 回	発音・文字指導	効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 5 回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第 6 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 7 回	授業準備・授業案	授業計画と授業準備
第 8 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表指導、模擬授業
第 9 回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム、英語運用能力とインタラクション
第 10 回	リーディング指導	効果的なリーディング指導、模擬授業
第 11 回	学習者論	自律的学習と学習方略
第 12 回	ライティング指導	効果的なライティング指導、領域統合型の指導、模擬授業
第 13 回	ことばと文化	多文化・異文化理解、語用論的指導
第 14 回	語彙・表現指導	効果的な語彙・表現指導、模擬授業
第 15 回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第 16 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 17 回	指導案	指導案の構成・内容
第 18 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 19 回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第 20 回	中学校での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 21 回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法、模擬授業
第 22 回	高等学校での指導	高等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 23 回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第 24 回	小学校での英語教育	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 25 回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第 26 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 27 回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・チーム・ティーチング
第 28 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備・復習時間は、各週計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参加/貢献度 (20%) *
- 2) 省察レポート (2) (40%)
- 3) 模擬授業 (20%) とその省察 (10%)
- 4) その他の課題 (10%)

*授業への参加を重視するため、授業6コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となる。

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ英語でも指導ができるようにするためこの授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手な学生でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）でZoomで実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載されるZoomの接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The first half of each course meeting provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. The second half of each course meeting focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics are directly linked to classroom instruction, including: the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法（1）

石原 紀子

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（2）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。個々のレポートに対する評価とフィードバックは、Google Classroomを通して一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第3回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第4回	授業準備	授業準備と授業計画
第5回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム・英語運用能力とインタラクション
第6回	学習者論	学習スタイルと学習方略
第7回	ことばと文化	ことばと文化、異文化理解・語用論的指導
第8回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第9回	指導案	指導案の構成・内容
第10回	教材研究	教材の特徴と評価、ICTの活用
第11回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第12回	早期外国語教育	早期外国語教育・イメージ教育の仕組みと効果
第13回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第14回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・効果的なティーム・ティーチング・まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加貢献度 (30%)
省察レポート (2) (60%)
その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans.

英語科教育法（2）

石原 紀子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニケーションな英語科教育のための 4 領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（1）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 2 回	学習指導要領、発音・文字指導	学習指導要領の変遷と内容、効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 3 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 4 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表の指導、模擬授業
第 5 回	リーディング指導	効果的な文字・リーディング指導、模擬授業
第 6 回	ライティング指導	効果的なライティング指導・領域統合型の指導、模擬授業
第 7 回	語彙指導	効果的な語彙指導、模擬授業
第 8 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 9 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 10 回	中学での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 11 回	高等学校での指導	高等学校での英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 12 回	小学校での指導	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 13 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 14 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加貢献度 (20%) *
省察レポート (2) (40%)
レッスン・プラン、模擬授業 (30%) とその省察 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics include the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法Ⅱ

飯野 厚

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりと教室運営ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語教授法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語教授法 2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語指導法 3	コミュニケーションアプローチ、ナチュラルアプローチ
第 8 回	外国語指導法 4	TBLT、CLBLT、CLIL
第 9 回	外国語指導法 5	サイレントウェイ、サジェストベディア、TPR
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	専門用語理解テスト
第 15 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 16 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 17 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 18 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育学、ICT 活用
第 19 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 20 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 21 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 22 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 23 回	四技能の統合的扱い	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 24 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 25 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル、主体的な学習者を育成するため具体例
第 26 回	テスト作成	到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 27 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 28 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う（基本的に Micro-teaching を含めたワークショップ+解説）。
- (2) 秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する。
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』 文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』 小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』 中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』 高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春・秋学期テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（3）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に活用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語教授法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語教授法 2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語教授法 3	コミュニケーションアプローチ、ナチュラルアプローチ
第 8 回	外国語教授法 4	TBLT、CBLT、CLIL
第 9 回	外国語教授法 5	サイレントウェイ、サジェストベディア、TPR
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 方式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』成美堂（2020）

【参考書】

『We Can』 文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』 小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』 中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』 高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（4）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身につけ、教室指導に活用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語と英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 2 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 3 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 4 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT 活用
第 5 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 6 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 7 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 8 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 9 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 10 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 11 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第 12 回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 13 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 14 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、授業内外の平常点 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法 II

飯野 厚

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身につけ、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりと教室運営ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語教授法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語教授法 2	オーラルメソッド（バーマーマエソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語指導法 3	コミュニケーション能力とは コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（バーマーマエソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは
第 8 回	外国語指導法 4	コミュニケーション能力とは
第 9 回	外国語指導法 5	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（バーマーマエソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、 語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	専門用語理解テスト
第 15 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 16 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 17 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 18 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育学、ICT 活用
第 19 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 20 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 21 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 22 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 23 回	四技能の統合的扱い	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 24 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル、主体的な学習者を育成するため具体例
第 25 回	学習者要因	到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 26 回	テスト作成	到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 27 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFRL 指導案作成、諸課題に関する論述
第 28 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う（基本的に Micro-teaching を含めたワークショップ+解説）。
- (2) 秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する。
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学3,4年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春・秋学期テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（3）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法1	文法訳読法、直接教授法、
第6回	外国語教授法2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第7回	外国語教授法3	コミュニケーション能力とは コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは
第8回	外国語教授法4	コミュニケーション能力とは
第9回	外国語教授法5	コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、 語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導1	演繹的指導法、PPP方式、明示的 フィードバック
第13回	文法指導2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的 フィードバック、気づき
第14回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』成美堂（2020）

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学3,4年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（4）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身につけ、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語と英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 2 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 3 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 4 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT 活用
第 5 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 6 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 7 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 8 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 9 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 10 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 11 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第 12 回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 13 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 14 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、授業内外の平常点 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

中国語科教育法 I

渡辺 昭太

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場いかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
- (2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第 3 回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第 4 回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第 5 回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 6 回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 7 回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第 8 回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第 9 回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現役教員の実践などを概観し、理解を深める。
第 10 回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現役教員の実践を紹介しつつ、e ラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国の言語事情—	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。

第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—現代中国語(普通話)—	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語(普通話)」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。	・本科目は国際文化学部自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
第 13 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音とピンイン—	・発音及びピンイン(アルファベット)を用いた中国語音声表記法への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。	・本科目は集中授業のため、2 時間連続して受講する必要があるため、履修の際には注意すること。
第 14 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音指導の留意点—	・発音及びピンイン(アルファベット)を用いた中国語音声表記法の指導時に留意すべき点を考える。	【Outline and objectives】 In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
第 15 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国語の類型論的特徴—	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。	
第 16 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—基本的文法構造—	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 17 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—動詞述語文—	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 18 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—名詞述語文—	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 19 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—形容詞述語文—	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 20 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—主述述語文—	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 21 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連体修飾表現—	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 22 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連用修飾表現—	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 23 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—補語—	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 24 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—助動詞—	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 25 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな構文—	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 26 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな複文—	・中国語のさまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 27 回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。	
第 28 回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。	

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』(最新版 文部科学省)
・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』(最新版 文部科学省)
・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』(最新版 文部科学省)
・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム)
・胡玉華(2009)、『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
・三宅登之(2012)、『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
・木村英樹(2017)、『中国語はじめの一歩 [新版]』(ちくま学芸文庫)、筑摩書房。
・稲垣忠、鈴木克明(2015)、『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
・劉月華・潘文娛・故韡(2019)、『实用現代漢語語法(第三版)』、北京:商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表(輪読発表、質疑応答など)を 30%、期末レポートを 70%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

中国語科教育法（1）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を精読し、その知識を教育の場いかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

(1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。

(2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点から交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第 3 回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 4 回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第 5 回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現任教員の実践などを概観し、理解を深める。
第 6 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国の言語事情—	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 7 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音とピンイン—	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。
第 8 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国語の類型論的特徴—	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 9 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—動詞述語文—	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 10 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—形容詞述語文—	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連体修飾表現—	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。

第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—補語—	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 13 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな構文—	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 14 回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
 ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
 ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
 ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
 ・胡玉華（2009）。「中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ」、東方書店。
 ・三宅登之（2012）。「中級中国語 読み解く文法」、白水社。
 ・木村英樹（2017）。「中国語はじめの第一歩 [新版]」（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
 ・稲垣忠、鈴木克明（2015）。「授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン」、北大路書房。
 ・劉月華・潘文娣・故韓（2019）。「《实用現代漢語語法（第三版）》」、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。

・中国語科教育法（1）と（2）は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法（2）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場に応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方をお考えするとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
- (2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点から交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第 2 回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第 3 回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 4 回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第 5 回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現任教員の実践を紹介しつつ、eラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第 6 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—現代中国語（普通話）—	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語（普通話）」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 7 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音指導の留意点—	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）の指導時に留意すべき点を考える。
第 8 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—基本的な文法構造—	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 9 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—名詞述語文—	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 10 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—主述述語文—	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連用修飾表現—	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—助動詞—	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。

第 13 回 中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。複文—

第 14 回 全体のまとめと振り返り | この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
- ・三宅登之（2012）『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
- ・木村英樹（2017）『中国語ははじめの一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
- ・劉月華・潘文焯・故譚（2019）『實用現代漢語語法（第三版）』、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なため、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法（1）と（2）は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法 II

渡辺 昭太

単位：4 単位 | 開講セメスター：秋学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようになる。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようにする。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第 3 回	教材研究—大学生向け教科書—	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第 4 回	教材研究—中高生向け教科書—	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第 5 回	教材研究—初級者向け文法書—	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 6 回	教材研究—中級者向け文法書—	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 7 回	教材研究—電子辞書・オンライン辞典等の活用—	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC 等）や ICT 教具の効果的な活用を考える。
第 8 回	教材研究—各種データベース／電子コーパスの活用—	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT 教材や情報機器の活用方法を検討する。
第 9 回	教材分析の準備—教科書選定—	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第 10 回	教材分析の準備—単元選定—	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第 11 回	教材分析の実践—教科書の全体的分析—	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 12 回	教材分析の実践—各単元の分析—	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 13 回	教材分析の発表—教科書の全体的特徴—	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。

第 14 回	教材分析の発表—各単元の特徴—	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第 15 回	授業研究—授業の組み立て方—	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第 16 回	授業研究—各技能の指導法—	・学習指導要領を踏まえ、中国語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第 17 回	授業研究—学習指導案の確認—	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第 18 回	授業研究—学習指導案作成上の留意事項—	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第 19 回	授業研究—テストと評価—	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第 20 回	授業研究—継続的学習を促す方法—	・学習者が中国語学習を継続的に進める仕組みや工夫、評価について検討する。
第 21 回	模擬授業の準備—教科書の選定—	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第 22 回	模擬授業の準備—単元の選定—	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第 23 回	学習指導案の作成—作成前の確認—	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第 24 回	学習指導案の作成—作成—	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第 25 回	模擬授業と講評—実践—	・受講生による模擬授業を行う。
第 26 回	模擬授業と講評—講評—	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第 27 回	中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。
第 28 回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』, 東方書店.
- ・三宅登之（2012）.『中級中国語 読み解く文法』, 白水社.
- ・木村英樹（2017）.『中国語ははじめの一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）, 筑摩書房.
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房.
- ・劉月華、潘文娛・故韓（2019）.『実用現代漢語語法（第三版）』, 北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なため、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。

・本科目は集中授業のため、2 時限連続して受講する必要があるため、履修の際には注意すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法 (3)

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	教材研究—大学生向け教科書—	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第 3 回	教材研究—初級者向け文法書—	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 4 回	教材研究—電子辞書・オンライン辞典等の活用—	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC 等）や ICT 教具の効果的な活用を考える。
第 5 回	教材分析の準備—教科書選定—	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第 6 回	教材分析の実践—教科書の全体的分析—	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 7 回	教材分析の発表—教科書の全体的特徴—	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。
第 8 回	授業研究—授業の組み立て方—	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第 9 回	授業研究—学習指導案の確認—	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第 10 回	授業研究—テストと評価—	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第 11 回	模擬授業の準備—教科書の選定—	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第 12 回	学習指導案の作成—作成前の確認—	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第 13 回	模擬授業と講評—実践—	・受講生による模擬授業を行う。

第 14 回 中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて

・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
- ・三宅登之（2012）『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
- ・木村英樹（2017）『中国語ははじめの一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
- ・劉月華、潘文暎・故緯（2019）『実用現代漢語語法（第三版）』、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語学習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法（4）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようになる。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第 2 回	教材研究—中高生向け教科書—	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第 3 回	教材研究—中級者向け文法書—	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 4 回	教材研究—各種データベース／電子コーパスの活用—	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT 教材や情報機器の活用方法を検討する。
第 5 回	教材分析の準備—単元選定—	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第 6 回	教材分析の実践—各単元の分析—	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 7 回	教材分析の発表—各単元の特徴—	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第 8 回	授業研究—各技能の指導法—	・学習指導要領を踏まえ、中国語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第 9 回	授業研究—学習指導案作成上の留意事項—	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第 10 回	授業研究—継続的学習を促す方法—	・学習者が中国語学習を継続的に進める仕組みや工夫、評価について検討する。
第 11 回	模擬授業の準備—単元の選定—	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第 12 回	学習指導案の作成—作成—	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第 13 回	模擬授業と講評—講評—	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第 14 回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』, 東方書店.
- ・三宅登之（2012）.『中級中国語 読み解く文法』, 白水社.
- ・木村英樹（2017）.『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）, 筑摩書房.
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房.
- ・劉月華・潘文娛・故韓（2019）.『実用現代漢語語法（第三版）』, 北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
- ・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

情報科教育法 I

御園生 純

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】

・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的な理解
4	普通教科情報の3つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報A」「情報B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実態とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報発信に必要なりテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】

学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

■評価配分

平常点 40%

課題1 40%（年間指導計画・単元計画の作成等）

小テスト20% 個人情報取り扱い・情報の引用・流用について

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません

【その他の重要事項】

ありません

【Outline and objectives】

The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho) is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生 純

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- I. 教科「情報」の概要と意義
 - II. 情報活用の実践力・情報の科学的理解
 - III. 情報化社会に参画する態度
 - IV. 教科「情報」における学習指導
 - V. 教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
- 以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】

- 1、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
- 2、授業指導案の作成能力の獲得
- 3、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度 I～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度 II～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労働業専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で新設されたのか、目的とその歴史的経緯などについては web 等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領「総則」編
高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題（発表プレゼン含む） 40%

模擬授業 30%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

教育実習（事前指導）

大栗 健二

単位：単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備について理解した上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルを取り上げる。

【到達目標】

4年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講座を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、英語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどのような準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（学習指導案授業批評）などを主な内容として構成する。

（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなる。）

フィードバックの方法としては、学生から提出された課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互でその課題に対して討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・本講義のテーマと目標 ・英語教育とは何か
第2回	英語科授業の理論と実践（1） 指導案の作り方（1）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ① ・英語の授業で大切にしたいこと（一人も取り残さない授業）
第3回	英語科授業の理論と実践（2） 指導案の作り方（2）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ② ・英語の授業で大切にしたいこと（楽しくわかる授業）
第4回	英語科授業の理論と実践（3） 指導案の作り方（3）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ③ ・英語の授業で大切にしたいこと（創造的な授業）
第5回	英語科授業の理論と実践（4） 指導案の作り方（4）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ④ ・英語の授業で大切にしたいこと（魂の触れ合う授業）
第6回	模擬授業（1）	授業のふり返し・討論
第7回	模擬授業（2）	授業のふり返し・討論
第8回	模擬授業（3）	授業のふり返し・討論
第9回	模擬授業（4）	授業のふり返し・討論
第10回	模擬授業（5）	授業のふり返し・討論
第11回	模擬授業（6）	授業のふり返し・討論
第12回	模擬授業（7）	授業のふり返し・討論
第13回	模擬授業（8）	授業のふり返し・討論
第14回	講義のまとめ	講義全体をふり返し、自らの課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で配信した講義資料を熟読して授業に臨み、毎時間毎に「授業に取り組んだ感想（疑問・質問・発見なども含む）」を書き、メールで提出すること。

なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『三訂 教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会編）
・『現場発！ 人間的な英語の授業を求めて』池田真澄（2019）高文研 2200 円＋税
・教員が配信する講義資料

【参考書】

・『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（指導案・教材作りなど） 50 %

模擬授業の成果 30 %

レポート 20 %

として評価する（出席は、単位認定の前提条件である）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】

受講人数によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline and objectives】

The theme of the class is "organizing classes". After understanding the flow of teaching practice and preparation for it, we will cover basic theories and knowledge related to the teaching plan and class itself, and indispensable skills.

教育実習（事前指導）

池田 真澄

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルと心構えなどを取り上げる。

【到達目標】

・教育実習に参加するために、教職、教科指導、生徒指導に関する基礎的な知識やスキルを習得することができる。
・教育実習で求められる社会的・対人的スキルを獲得することができる。
・学習指導案を書き、授業を行うことができる。
なお、教育実習の受講を希望する学生は、教育実習事前指導を必ず受講し、実習前年度までにこの講義に合格する必要がある。本講義はクラス指定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Zoom と学習支援システムを中心に進める。講義の内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討、⑤すでに教育実習を実施した4年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価される。事後指導の評価は、実習日誌、教育実習体験レポートによる。また毎時間アクションペーパーを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。オンラインの場合は別の方法でフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力とは
2	教育実習に向けて	教育実習の目的、流れ、準備
3	学習指導	教育実習で知っておくべき基礎・基本
4	生徒指導	教育実習で知っておくべき基礎・基本
5	授業デザイン(1)	教材研究の進め方、学習指導案の書き方
6	授業デザイン(2)	学習指導案の書き方
7	授業デザイン(3)	発問、板書、ICT活用、指導・支援のあり方
8	オンデマンド型の授業(1)	スライドの構成案と検討
9	オンデマンド型の授業(2)	実施と評価
10	学習指導案検討	学習指導案の検討と準備
11	模擬授業(1)	授業の実施と検討
12	模擬授業(2)	授業の実施と検討
13	4年生との共同授業	4年生によるプレゼンと交流
14	授業のまとめ	授業づくりのポイント、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応じてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真澄『現場発！ 人間的な英語授業を求めて』高文研、2019年。

【参考書】

筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習』有斐閣、2017年。文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題、学習指導案、模擬授業、レポート（70%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行う視点のたせ方を工夫する。

【Outline and objectives】

Students in this class are supposed to aim to acquire basic knowledge and skills necessary for implementing teaching intern. Some of the targets are (1) gaining basic knowledge and skills of teaching profession, instruction and student guidance, (2) developing social and interpersonal skills, and (3) practicing teaching by developing lesson plans.

教育実習（事前指導）

丸山 義昭

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。4年生の教育実習体験を聴くことによって、現場での教育実習の具体的な取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

4年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と、教科指導に関わる基礎知識と力量、教育実習に取り組むための方法・技術の獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なお、この講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と、所属学部注意到登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、国語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④授業検討（授業検討）、⑤すでに教育実習を実施した4年生から体験を聴いて学ぶ、を中心的な内容として構成する。毎回、フィードバック用紙に意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時に全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4年次教育実習終了時の指定される時期（毎年10月上旬から12月中旬頃）、前年に参加した教育実習事前指導の講義クラスに相当する授業に参加し、3年生に実習体験や、授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4年次秋に掲示にて連絡するので、注意すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の方法や目当て、講義の進め方等についてのガイダンス
第2回	実習に向けての準備のあり方	授業において起こり得る様々なケースや陥りやすい思い込みなど、実践例を用いて確認する
第3回	4年生の教育実習体験を聴く①	学習指導案作成についての基本的な考え方と留意点
第4回	4年生の教育実習体験を聴く②	各自の授業テーマの設定と学習指導案の構想 B 4一枚程度の報告書提出、作業日程の確認
第5回	4年生の教育実習体験を聴く③	学習指導案の具体的な書き方とその構成要素の説明
第6回	4年生の教育実習体験を聴く④	模擬授業①「説明的文章」
第7回	4年生の教育実習体験を聴く⑤	授業の実際と学習指導案の展開①
第8回	4年生の教育実習体験を聴く⑥	模擬授業②「小説」
第9回	4年生の教育実習体験を聴く⑦	授業の実際と学習指導案の展開②
第10回	4年生の教育実習体験を聴く⑧	模擬授業③「古典」
第11回	模擬授業（中学国語・説明的文章）	各自の学習指導案の報告と検討 各グループに分かれて行う
第12回	模擬授業（中学国語・小説）	教員による模擬授業（学生の選んだテーマの多い領域での模擬授業） 模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評
第13回	模擬授業（高校国語・評論）	模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評
第14回	模擬授業（高校国語・小説）	模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作成した学習指導案について教員の方からコメント、修正すべき点を提示するので、その内容、実際の模擬授業での実践、他者の模擬授業を見ての反省などを踏まえて作成し、最終レポートしての指導案は、第14回時に提出すること。詳細は授業内で指示する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。また、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を教育実習ガイダンス時に配布するので、参考にすること。

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
 『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
 『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
 『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
 『子どもの自分くずしと自分づくり』竹内常一（東京大学出版会）
 『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
 『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
 『改訂新版 教師の条件』小島弘道 他（学文社）
 『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
 『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コルサック社）
 『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
 『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
 『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視するが、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、話し合い・討論への参加状況、模擬授業の様子、レポート課題（学習指導案など）を総合して評価する。なお、評価基準の詳細は、最初の講義時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “how to give classes that develop students’ creativity”. This course includes classes on how to write teaching plan, the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching. Also, the students can learn the specific tackling about the practice teaching, listening to the experience of the seniors who have completed it.

教育実習（事前指導）

松尾 知明

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面で実施し、授業支援システムを活用する。本は、授業中学校社会科・理科、高校地歴・公民・理科・商業の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

- ①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
 - ②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
 - ③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
- また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。課題は、授業のなかでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ(1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ(2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ(3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ(4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ(5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する(高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する(高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する(中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する(中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。以上の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40%）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60%）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

寺崎 里水

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

- ①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
- ②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
- ③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう

また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。模擬授業や学習指導案に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ (1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ (2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ (3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ (4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ (5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する (高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する (高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する (中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する (中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40％）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60％）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を実施します。オンラインでやらなければならない状況になったときには、オンラインで模擬授業を実施します。その場合、スマホやタブレットでは性能が不十分な可能性がありますので、PCで授業を受けるようにしてください。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

高野 良一

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、中学校社会科・理科、高校地歴・公民・理科・商業の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか

②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ

③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう

また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。なお、対面授業を原則とします（コロナ感染症等の状況により変更、ZOOMと併用もありません）。

提出された課題は、次回授業などでフィードバックすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ(1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ(2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ(3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ(4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ(5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生(4年生)の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生(4年生)の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する(高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する(高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する(中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する(中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。以上の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考してください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40%）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60%）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

筒井 美紀

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業を如何に作り込むか。如何に力強い授業を展開するか。それがこのクラスのテーマである。教育実習の流れやその準備にふれた上で、学習指導案・授業の基礎理論と基礎知識、授業実践に不可欠なスキルを習得する。

【到達目標】

4年次の教育実習を立派にやり抜くために、教職および教科指導に関する実践的基礎理論・基礎知識の取得、社会的・対人スキルの形成・向上をゴールとする。教育実習参加希望の学生は、必ずこの授業を受講し、実習前年度までに合格しておかねばならない。なお、この講義はクラス指定があるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部注意到登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は原則対面、ただし、コロナ状況によっては zoom によるリアルタイム方式に切り替える可能性もある。

授業内容は、＜社会・地歴・公民・商業科＞免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けて如何なる準備とスキルが必要かの理解、②学習指導案（授業指導案）の作り方、③授業を行う基礎スキルの習得、④相互扶助的な授業検討（批評）の方法、⑤既に教育実習を実施した4年生との議論を通した学び、を中心とする（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習等を総合して評価される。）課題レポートはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標や流れの説明、班分け／教育実習を、対人関係や社会的場、専門職の振舞い方という観点から理解する。
第2回	実習生はどう評価されるか？	テキスト1,2章の予習を前提に授業。教育専門職とは何が求められるか。
第3回	学習指導案作成の基礎と指導案例の検討	テキスト3章の予習を前提に授業。「イマイチ」な指導案批判的に検討し、改善案を実演する。
第4回	各自指導案の作成①	各自指導案を作成。ミニ・パフォーマンスも行う。
第5回	各自指導案の作成②	引き続き各自指導案作成。適宜相談。
第6回	指導案の提出、模擬授業代表指導案決定	授業開始時、指導案を教員に提出後、各班で代表指導案を決める。
第7回	模擬授業（中学社会）	および討論。生徒に何をさせるのかを明確にした授業。
第8回	模擬授業（商業）	および討論。問題集解きに終始しない指導。
第9回	模擬授業（世界史①）	および討論。暗記に終始させない画像の活用。
第10回	模擬授業（世界史②）	および討論。歴史の因果を考えさせるICTの活用。
第11回	模擬授業（地理①）	および討論。地図と画像と数値を駆使したグループワーク。
第12回	模擬授業（地理②）	および討論。生活・文化との関連を実感させる実物教法。
第13回	模擬授業（公民①）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。
第14回	模擬授業（公民②）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に臨むにあたって、予習と復習（preparation and review）は膨大である。教育実習を立派にやり抜くには、それをこなせることが不可欠。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり編（2016）『ベストをつくす教育実習』有斐閣

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局
・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

課題レポート20%、中間学習指導案20%、期末学習指導案40%、模擬授業と検討など授業への知的貢献20%。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業は DVR で撮影し映像データを見られるようにします。映像を見てしっかり振り返りをする事。

【その他の重要事項】

第1回に、班や作業割り当てが決められ、第2回から、毎回毎回、ワークをこなしていく。「初回くらい、どうってことない」などと甘い考えで欠席しないこと。「ちょっとくらい、提出が遅れたっていいじゃないか」—こういう学生は、教育実習に行く資格はありません。出席と課題提出には極めて厳しい規準を設定します。

【Outline and objectives】

In this class the students learn how to prepare for teaching, to construct a powful and relevant class of social studies etc., that is, to understand the flow of teaching practice and to master the basic skills of teaching.

教育実習（事前指導）

御園生 純

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつ様々な意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。プレゼンテーション及び各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス 2 教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス 3 校務分掌	教職員の服務 生徒指導
第7回	実習ガイダンス 4 学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第8回	教科指導 授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導 学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導 学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導 模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法をまなぶ
第14回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領 情報編

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、

- 授業への積極的参加、貢献度 30%
- 課題（指導案等）の提出 40%
- 授業計画のプレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業ができる。様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】

- ・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
- ・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
- ・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

宮坂 健介

単位：単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部注意到登録すること。

【到達目標】

中国語の教育実習を行う際に、「きちんと」授業ができることを目指す。「きちんと」という中には、教材研究・授業計画の作り方・生徒対応など授業を成り立たせる基本を身に付け、それを実際に生かすことができるという意味が含まれる。どのような中国語の知識が必要なのか、そしてそれをどのように使うのかを中心に講義し、実践も行っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、外国語科（中国語）免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した4年生からの体験を学ぶことを中心とした内容として構成する。授業内での発表も行う。その際のレポートについては、授業中に取り上げて、問題点や美点などを含めて議論を進め、コメントを加えたい。対面授業ができない場合は講義動画を織り交ぜつつ、必要な知識が身に付けられるように展開したい。

第1回については、zoomにて行いたいので、下記までアクセスしてください。
<https://us02web.zoom.us/j/87093635219?pwd=REF4SVdqZjNWNSStnZDc1QzlwYWVhCQQT09>

なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4年次教育実習終了時の指定される時期（毎年11月の初旬から中旬頃）に、前年参加した教育実習事前指導講義のクラスに相当する授業に参加し、3年生に実習体験や授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4年次秋に掲示にて連絡するので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	講義全体の概要を説明する。
第2回	教育実習における基本姿勢(1)	教育実習とはどのようなものか。「教師」としての基本姿勢を学ぶ。
第3回	教育実習における基本姿勢(2)	実習前の準備と言語教育の基本を学ぶ。
第4回	教育実習における基本姿勢(3)	言語教育の基本について学ぶ。
第5回	教育実習における基本姿勢(4)	言語教育の基本について学ぶ。
第6回	教育実習における基本姿勢(5)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第7回	教育実習における基本姿勢(6)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第8回	教科書検討会	中国語教科書について実際に比較検討を発表する
第9回	指導案の書き方	外国語を教える際の注意点と指導法の確認を中心に、どのように授業を組み立ててゆくか考える。
第10回	模擬授業	これまでの授業をもとに模擬授業を行う。
第11回	実習を終えた4年生参加による教育実習報告会	実習の実際について報告を聞く。
第12回	教育実習における注意点(1)	教材研究などについて学ぶ。
第13回	教育実習における注意点(2)	授業以外の教育実習についての注意点を確認する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語をはじめとする第二言語習得についての文献を幅広く読むこと、現在の中国語教科書について調べることを中心として、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布します。

【参考書】

法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』
『高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす（試行版）』
『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）を重視するが、討論への参加状況、レポート課題（指導案作成 30 %）、模擬授業（30 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

意見を言ったり質問をしやすいた授業にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン若しくはスマートフォン・タブレット

【Outline and objectives】

As a prerequisite for participating in teaching practice in the fourth year, we aim to establish basic knowledge on teacher training and basic knowledge / competence related to subject guidance, and acquire certain skills that can cope with educational practice. Students who wish to take an educational training must attend this lecture without fail and must pass the examination by the previous fiscal year. In cases where it is not accepted as passing in this lecture, you can not participate in teaching practice. Since this lecture is class designation, register it with attention to the subject of the license to be acquired by yourself and the faculty affiliated.

教職実践演習

大栗 健二

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職を担うにふさわしい知識、技能、ならびに教職を目指す姿勢の獲得について、4 年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

①学校現場における授業を進める実践的スキルの獲得②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得③子ども理解及び学級・学校の実際の理解④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定⑤積極的なコミュニケーションと発表・プレゼンテーションのスキルの獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習形式の授業を基本とするが、グループ学習、教職履修の 3 年生（対応する教科の教育実習事前指導クラスの学生）との協同討論を通しての経験報告やアドバイス、最終レポート作成などによって構成する。フィードバックは授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて行う。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義にテーマと目標、具体的な授業展開についてのガイダンス
第 2 回	講義と討論（1）	「授業論・目的論」の講義と討論
第 3 回	講義と討論（2）	「教材論」の講義と討論
第 4 回	講義と討論（3）	「協同学習」の講義と討論
第 5 回	講義と討論（4）	「自己表現」の講義と討論
第 6 回	講義と討論（5）	「主体的で対話的な学び」の講義と討論
第 7 回	前期木曜 4 限 (6/24 予定)	教育実習に向けて準備している 3 年生と、自らの教育実習の経験交流
第 8 回	講義と討論（5）	「英語教育の諸課題」講義と討論
第 9 回	講義と演習（1）	「創造的な授業」の講義と演習
第 10 回	講義と演習（2）	「音声指導」の講義と演習
第 11 回	グループによる音声指導の発表（1）	グループによるプレゼンテーション（1）
第 12 回	グループによる音声指導の発表（2）	グループによるプレゼンテーション（2）
第 13 回	グループによる音声指導の発表（3）	グループによるプレゼンテーション（3）
第 14 回	講義のまとめ	講義全体のまとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から教育書、新聞、インターネットなどで今日の教育、とりわけ外国語教育の状況や問題点を十分に把握する。また日本や世界の抱える課題に目を向け、視野を広げ、認識を深める努力をする。本学期的準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・「現場発！ 人間的な英語の授業を求めて」池田真澄（2019）高文研 2200 円＋税

【参考書】

「教科指導・生活指導・学校づくりなどの実践記録」（授業で指示）中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省

【成績評価の方法と基準】

①グループ研究のまとめとプレゼンテーションの評価②演習への参加と討論への参加状況③最終レポート、を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【学生が準備すべき機器他】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【その他の重要事項】

受講人数によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to achieve the goal as university education required for teacher license acquisition, with regard to acquiring knowledge, skills and attitude towards teaching, which is appropriate for teaching jobs, based on the achievements such as the unit acquisition status in 4 years and the results of related subjects.

教職実践演習

池田 真澄

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職をめざす姿勢の獲得について、4年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

教職に就くための基礎力量の上げを行う。

- ①授業を進める上での実践的スキルの獲得と生徒理解
 - ②専門とする教科領域における教育内容についての研究と教材作成力の獲得（授業指導案の作成を含む）
 - ③今日の子どもの理解及び学級・学校の実際の理解と実践力、指導力量の育成
 - ④教職に向けての明確な意志の確立と各自の実践上の目標を設定
 - ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
- なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループを組んで共同研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には①教科の内容に関するブックレット等の作成（教科内容研究）、②教職等の仕事の現状についての調査報告書の作成（職業研究）、③子どもの困難、青年の自立の困難等について調査報告書の作成（子ども・青年研究）から選択。発表も行う。「教育実習事前指導」の受講生を対象に、模擬授業や教育実習体験の報告なども行う。また毎時間リアクションペーパーを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。オンラインの場合は別の方法でフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本講義の目標と性格について説明。本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。履修カルテの確認
第 2 回	教育実習の総括	①各自の教育実習の振り返り、教職に就くためにどのような力量やスキルが求められるのか、学生の報告と討論を行い、教員が総括する。その結果を踏まえて、3年生へのメッセージの作成する。②この「演習」における各自の課題設定およびグループ分け
第 3 回	グループでの実習体験報告①教職の現代的性格の検討	講義＜今日の教職に求められる専門性とスキルとは何か＞に基づき、教職のあり方についての討論を行う。今日の労働がおかれている実態や法的仕組みなどを踏まえつつ、どうその専門性を高めていくかを考える。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 4 回	グループでの実習体験報告②後輩へのメッセージのプレゼンテーション要領	3年生に対して教育実習への準備のあり方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する年生との質疑応答を行う。
第 5 回	グループでの実習体験報告③グループ作業①	グループ作業。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 6 回	グループでの実習体験報告④	グループ作業。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。
第 7 回	グループでの実習体験報告⑤	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。

第 8 回	グループでの実習体験報告⑥	現場実習体験を報告するという一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 9 回	グループでの実習体験報告⑦	現場の体験を共有するという一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 10 回	グループでの実習体験報告⑧	発表とそれにもとづく議論一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 11 回	学ぶということ・教えるということ①	発表とそれにもとづく議論
第 12 回	学ぶということ・教えるということ②	発表とそれにもとづく議論
第 13 回	学ぶということ・教えるということ③	発表とそれにもとづく議論
第 14 回	発表総括・後輩への提言	グループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同作業を通じて討論やプレゼンテーションスキルを高める。共同作業に責任を持って参加する。教育の現在における役割を考える。本授業の準備・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

池田真澄『現場発！ 人間的な英語の授業を求めて』高文研、2019年

【参考書】

『学習指導要領』（文部科学省）
『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世識書房）
改訂版『教師の条件』小島弘道 他（学文社）
など

【成績評価の方法と基準】

①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加とそのなかでの役割の遂行や討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価にかかわって個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

学生アンケートの回答より研究する。

【Outline and objectives】

The target of this class is to accomplish all necessary works during the educational system in university to obtain the teaching license. It refers every student's grade average on all the related 4 year class works, and his/her attitude to be a teacher with desired skill and knowledge.

教職実践演習

丸山 義昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得をはかるとともに、4年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

教職に就くための基礎力量の総仕上げを行う。

- ①授業を進める上での実践的な方法・技術の獲得と生徒理解
- ②専門とする教科領域における教育内容についての理解と、教材研究と授業構想の能力の獲得（学習指導案の作成力も含む）
- ③今日の子どもも理解および学校・学級についての理解と実践力、指導力量の獲得
- ④教職に向けての明確な意志の確立と、各自の実践上の目標を設定すること
- ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーション技能の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループを組んで共同研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には、①教科の内容に関するブックレット等の作成（教科内容研究）、②教職等の仕事の現状についての調査報告書の作成（職業研究）、③子ども・青年の置かれている状況の困難さなどについての調査報告書の作成（子ども・青年研究）から選択。発表も行う。「教育実習事前指導」の受講生を対象に、模擬授業や教育実習体験の報告なども行う。毎回、前時の授業後に提出されたりアクションペーパーから意見や感想、質問をいくつか取り上げて全体にフィードバックし、相互の応答と教員のコメントを交えながら、さらなる議論に活かしていく。なお、課題の提出等は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	本講義の目標と性格について説明する。本講義で取り組む課題、到達すべき目標について確認する。履修カルテの確認。
2	教育実習の総括	①各自の教育実習を振り返りながら、教職に就くためにどのような力量や技能が求められるのか、学生の報告と討論を行い、教員が総括する。その結果を踏まえて、3年生へのメッセージを作成する。②この「演習」における各自の課題設定およびグループ分け。
3	グループでの実習体験報告①	今日の教職に求められる専門性と技能についての講義に基づきながら、教職のあり方について討論を行う。グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
4	グループでの実習体験報告②	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
5	グループでの実習体験報告③	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
6	グループでの実習体験報告④	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。

7	グループでの実習体験報告⑤	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
8	グループでの実習体験報告⑥	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
9	グループでの実習体験報告⑦	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
10	グループでの実習体験報告⑧	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
11	グループでの実習体験報告⑨	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
12	グループでの実習体験報告⑩	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
13	グループでの実習体験報告⑪	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
14	発表総括・後輩への提言	グループ演習。学ぶということ・教えるということについての考察のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習の体験報告の準備、学習指導案の練り直しなど模擬授業の準備、模擬授業後の振り返りシートの作成等を行う。参考文献を読み込むことにより、実習体験を意味づけるとともに、教育現場の抱える問題や取り組むべき課題などについて理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
 『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
 『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
 『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
 『子どもの自分くずしと自分づくり』竹内常一（東京大学出版会）
 『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
 『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
 『改訂新版 教師の条件』小島弘道 他（学文社）
 『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
 『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コールサク社）
 『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
 『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
 『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加と役割の遂行、討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価に関わって個別面談を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The target of this class is to foster the student's positive attitude to teaching with good skills and knowledge, and accomplish the goal of obtaining a teaching license through a 4-year university education based on the scholastic marks in the related subjects.

教職実践演習

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせで構成する。

個別的指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしぐみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

寺崎 里水

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面で、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる。個別指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。なお、学生のクラス分けは教科ごととする。課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究成果発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行います。オンラインで授業を実施しなければならない場合、リアルタイムオンラインとオンデマンドの両方の形式を併用します。いずれの場合も出席をとりますので、オンデマンドであっても、リアルタイムで参加してください。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる。

個別指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

また、授業は対面を原則とします（但し、コロナ感染症当への対応から変更、ZOOMとの併用もありえます）。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしぐみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

筒井 美紀

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得について、4年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

上述のプロセスをとおして、専門職の土台をつくる。具体的には、
 ①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
 ②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
 ③子ども理解及び学級・学校の実地の理解
 ④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
 ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得の5点を、到達目標とする。
 なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

原則対面ですが、コロナ状況によっては zoom によるリアルタイム授業に切り替える可能性もあります。

【進め方】

(1) 学校種・教科を基本に、グループを結成して授業について共同研究を行う（発表と期末論文執筆）。(2) 生徒指導の事例研究をとおして、その実践的理解を深める。

課題レポートについてはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や課題、評価方法の説明。所属研究班の心積もり。次週までに、研究テーマをA4一枚に書いてくる
第2回	研究グループの結成／学術論文7つの構成要素	グループを結成。テーマと分担について話し合う／論文の書き方についてミニ・レクチャー
第3回	テーマと分担についての発表	各グループの代表者が発表、フロアから質問・助言をする。
第4回	教職のあり方：報告と議論	実習経験を元に、勤務・労働実態、教職の専門性と自由、教員評価と学校評価などについて議論する
第5回	生徒指導の実践的研究① 学級経営	多様な気質・背景の生徒たちから成る学級をどうまとめていくか、事例研究を通して学ぶ
第6回	生徒指導の実践的研究② 進路指導・キャリア教育	ロールプレイングととおしてスキルを磨きつつ議論する
第7回	生徒指導の実践的研究③ 保護者や地域への対応	ロールプレイングととおしてスキルを磨きつつ視野を広める
第8回	生徒指導の実践的研究④ 危機管理を中心に	事例研究を通して、災害や犯罪、対人トラブルへの対処方法について議論する
第9回	発表① 中学社会班	ICTを駆使し興味を思考に繋げる工夫
第10回	発表② 高校地理班	地図と画像と数値を総合的に活用し考えさせる工夫
第11回	発表③ 高校歴史班	現代から遡及的に探究させる工夫
第12回	発表④ 高校商業班	経済と生活の理解を深めさせる工夫
第13回	発表⑤ 高校公民班	社会の一員として主体的に生きることに誘うような授業の工夫
第14回	発表⑥ 三年生コーチング班	学校職場と同僚性に引きつけて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に生産的・協働的な作業や議論が可能になるよう、担当箇所をきちんと準備身体を教室に運ぶこと。本授業の準備・復習時間は、標準2時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示。

【参考書】

「高等学校学習指導要領（本文）」「高等学校学習指導要領解説（総則、地理歴史、公民、商業）」「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（総則、社会）」

【成績評価の方法と基準】

ロールプレイング・事例研究への参加・貢献20%、グループ発表40%、期末論文40%

【学生の意見等からの気づき】

＜学術論文7つの構成要素＞はわかりやすいとこのことでしたので、引き続きレクチャーします。

【学生が準備すべき機器他】

教室ではパワーポイント等の上映ができるので使用者はUSBを持参のこと。

【Outline and objectives】

In this class students are to review their experience of teaching practice at school and master the basic skills for teaching and guiding pupils.

教育実習（高）**教育実習担当教員※**

単位：3 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して、教師の仕事の重要性・困難性、あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力を育成するとともに、その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】

教師としての仕事を遂行するために必要な力量を獲得する。そのためにも、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の「事後指導」を通して、反省と総括を行う。

事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。

課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの、反省点などをまとめ、②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり、③実際に行った授業を3年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで適宜指示する。

【参考書】

文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』

法政大学『教育実習の手引き』

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の評価を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】

The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

教育実習（中・高）**教育実習担当教員※**

単位：5 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して、教師の仕事の重要性・困難性、あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力を育成するとともに、その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】

教師としての職務を遂行するために必要な力量形成の仕上げを行う。そのため、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の「事後指導」を通して、反省と総括を行う。

事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの、反省点などをまとめ、②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり、③実際に行った授業を3年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』

その他、必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】

The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

人文地理学 I

片岡 義晴

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の農産物貿易の特色と仕組み、そこに見いだされる問題点を把握することを通して、現代世界の構造を理解できるようにしていきます。とりわけアグリビジネスの活動に主眼を置いて農産物貿易の仕組みを把握していきます。

【到達目標】

世界の農産物の貿易構造を大枠でとらえた上で、特徴的な農作物の貿易の特色と仕組みを把握していきます。そこに見いだされる問題点から、現代世界の政治・経済の仕組みの一端を理解できるようにしていきます。「誰」が貿易を支配しているのかに着目して、構造を把握していきます。特に「アグリビジネス」の実態を通して理解を深めていきますから、現代世界の農産物貿易の仕組みを把握できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

経済のグローバル化の中で世界の貿易はその量・額ともに増大していますが、この授業では主に農産物貿易を対象としてとりあげ、その仕組み、貿易拡大に伴う問題などを具体的に検討していきます。さらにそうした問題の克服のための試みも紹介していきます。具体的には「アグリビジネス」の実態について、個別の作物、畜目（バナナや茶、コーヒー、プロイラー等）を取り上げ、農産物貿易の仕組みを把握できるようにしていきます。また、アフリカの「砂漠化」を例に、「砂漠化」を「開発」という視点から考えていきます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧需給	世界の食糧需給と食料自給率
第 2 回	世界の食糧とアグリビジネス (1)	世界の農産物貿易の構造
第 3 回	世界の食糧とアグリビジネス (2)	農産物貿易と多国籍企業
第 4 回	世界の食糧とアグリビジネス (3)	アグリビジネス企業の実態－カーギルの事例－
第 5 回	世界の食糧とアグリビジネス (4)	アグリビジネス企業の実態－モンサントによる遺伝子組み換え作物－
第 6 回	世界の食糧とアグリビジネス (5)	食品安全基準の国際的「統合」
第 7 回	果汁産業の展開と多国籍企業	ブラジルの事例
第 8 回	バナナの生産構造と多国籍企業	フィリピンの事例
第 9 回	紅茶生産と多国籍企業	ケニアにおける政治変化と紅茶生産の拡大
第 10 回	コーヒー危機	コーヒー危機とベトナムのコーヒー生産拡大
第 11 回	飼料、畜産のグローバル化	飼料支配と多国籍企業
第 12 回	フェアトレード	フェアトレード（公正貿易）の展開と問題点
第 13 回	アフリカの旱魃と気候	「砂漠化」と「開発」
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ここ数年「日本食は世界一」「注目される日本食」などという意味不明な情報が跋扈していますが、日頃食べているものはどこから来ているか、それを考えるだけで現代日本の食が、いかに海外に食材を依存しているかを知ることができます。今や「日本食」は海外原料なくしては成立し得ない「幻想の産物」に過ぎません。

また国産農産物も外国人技能実習生に支えられており、国産農産物もまたグローバルな人材によって担われているのです。国産信仰もまた「幻想」に過ぎません。

さて、WTO ドーハラウンド交渉の挫折、TPP 妥結、米国の不参加、2020 年米国大統領選挙後、TPP への参加を米国は再び模索するするなど、この 5～6 年の貿易を巡る情勢は大きく変化しています。貿易一般の情勢変化は、当然、農産物貿易のあり方を規定します。「地理学」的把握も、現実の社会の動き（国際的動向）に連動したものでなければなりません。

なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

大塚・松原編著（2004）『現代の食とアグリビジネス』有斐閣を一応の参考書としておきますが、他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加程度（出席状況を含む）等平常点約 20 点、筆記試験約 80 点、合計約 100 点で成績評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業が「問題」の「解決策」を示さず、「批判的」過ぎるとの意見もあるようです。しかしこの授業は、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。安易な「解決策」など提示しませんし、できません。そもそも授業で「解決策」を提示でき、そしてそれを実行できるならば、この世に「問題」など存在しません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Agribusiness in the World.

人文地理学Ⅱ

片岡 義晴

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業（鉄鋼業と石炭産業）の変容と、その過程で生じた「地域問題」を取り上げ、「地域問題」の仕組みを学びます。

【到達目標】

かつては主力産業であったが今や一方は比重を下げ、もう一方はほぼ消滅した産業、すなわち鉄鋼業と石炭産業という 2 つの産業と地域との関連を通して、日本の「地域問題」の仕組みを学びます。それらを通して、「地域問題」に対する把握方法を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

一時期は一国の主力産業であっても、それは永遠ではありません。そうした産業の史的展開はそれらが立地している地域に大きな問題を生じさせます。「地域問題」を産業の変遷と関連づけて整理していきます。鉄鋼業と石炭産業は共に第二次世界大戦後、日本経済を牽引した産業ですが、かつての勢いは失われています。いや一方はほぼ消滅しました。それらの過程で、一体どのような地域問題が生じたのか、それを具体的に検討していきます。

【授業の方法】 講義形式で授業を進めます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦後の経済発展と鉄鋼業・石炭産業 (1)	戦後復興と「傾斜生産方式」
第 2 回	第二次世界大戦後の経済政策と鉄鋼業・石炭産業 (2)	日本における鉄鋼業の変遷
第 3 回	鉄鋼業の変遷 (1)	鉄鋼企業の変遷
第 4 回	鉄鋼業の変遷 (2)	鉄鋼の生産工程
第 5 回	鉄鋼業と地域	新日鐵釜石と岩手県釜石市
第 6 回	日本のエネルギー政策と石炭	新エネルギーと石炭需要
第 7 回	石炭政策の展開と石炭産業 (1)	幕末の開港と石炭需要
第 8 回	石炭政策の展開と石炭産業 (2)	明治政府の石炭政策とその後の展開
第 9 回	石炭政策の展開と石炭産業 (3)	第二次大戦後の石炭政策
第 10 回	石炭産業の展開と地域 (1)	九州と北海道
第 11 回	石炭産業の展開と地域 (2)	産炭地崩壊の地域性
第 12 回	三池争議と三井三池炭産	三池炭産の史的展開過程と、労働強化爆発
第 13 回	太平洋炭閉山	太平洋炭産の史的展開と閉山
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

鉄鋼生産にはコークスが必要ですが、コークスは石炭からつくられます。産業上、両者は関連し合っています。しかし「石炭」の国内生産は既に放棄され、鉄鉱石の生産も同様です。しかしアジア、たとえば中国では、近年炭産事故が多発しています。新聞などの海外ニュース、特に「鉄産」に関する記事に眼を向けて下さい。一方、鉄鋼業については、新聞では経済ニュース欄に、各企業の情報がしばしば登場します。ただし、鉄産については輸入先の情報が時々登場する程度です。いずれの場合も、関連報道をチェックするようにして下さい。

なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

奈賀悟（1997）『閉山－三井三池炭坑 1889～1997』岩波書店（同時代ライブラリー）

その他、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）等の平常点約 20 点、筆記試験（記述式）約 80 点、合計約 100 点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業が「批判的」過ぎるとの意見もあります。しかしこの授業では、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

日頃、大量に消費しているにもかかわらずそれに気づかない鉄鋼製品、石炭から見える日本の姿を知っていただければと思います。

【Outline and objectives】

Regional problems under the changing steel industries and coal mines in Japan.

自然地理学 I

狩野 真規

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の基本を学びながら、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。例えば地図や分布図の読図に関わる技能や ICT 教材の利用のためのノウハウなどの獲得を狙いつつ、中学・高校の地理の授業に必要な知識や実践のためのヒントを講義や実習から学んでいく。

【到達目標】

実際に中学・高校での地理の授業を板書だけに頼らないレベルで実施できる知識や指導法の獲得と、自然地理学にまつわる話題の理解を目指す。また、文部科学省の学習指導要領の中学社会および、高校地歴の内容の理解も目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に図表などはプリントで配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した講義形式とする。また、各回の最後に次回への課題を提示し、次回冒頭にて小テストを実施ないしは実習課題等を提出する。フィードバックについては小テストならば、直後の講義内で解答の確認をしていく。場合によっては次回に返却する（実習課題は次回返却をもってフィードバックとする）。なお、予定では教室での対面形式での実施を前提とするが、オンラインでの受講となるケースがあれば、適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理の内容について確認する。
第 2 回	地理の教科書を見る	実際の中学・高校における地理の教科書にて自然地理に関わる内容を確認する。
第 3 回	地球の成り立ちと地球表面における活動	地表面の形成とプレートの運動について、わが国の自然環境と発生する災害などを確認する。
第 4 回	地図の活用	授業での地図の活用について、地形図や GIS などを利用するための方法を探る。
第 5 回	地形図の読図・その 1	実際の地形図を使って、地形図上の土地利用を考える。
第 6 回	地形図の読図・その 2	実際の地形図を使って、地形計測を行う。
第 7 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 8 回	ケッペンの気候区分について	ケッペンの気候区分とその設定基準について確認する。
第 9 回	小気候スケールの現象	生活圏の地理的課題と地域調査の観点から身近な地域で発生する現象やその仕組みを考える。
第 10 回	気候景観について	身近な生活空間で発現する現象からその場所の気候を考える。
第 11 回	地球上における水	地球的課題の観点から生活に不可欠な水とその分布状態について考える。
第 12 回	水資源とその利用	生活圏の地理的課題の観点から人間が利用できる水資源とその問題点について考える。
第 13 回	自然災害と防災について	我が国の自然環境の特色を踏まえた上で、災害を引き起こす自然現象に注目し、防災意識を高めるための教材作りについて考える。
第 14 回	ICT 教材やアクティブラーニングについて	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の冒頭にて小テストを実施するか、実習課題を課すので、その準備が必要となる（予習の代わり）。小テストないしは課題の内容は毎回の講義の最後にて指示する。なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ 2 時間、復習も 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。

また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を留意すること。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論、朝倉書店
水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門 ベレ出版
などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

毎回、何かしら評価の対象となるものを課題として設定するので、その合計で評価をする。具体的には小テストないしは実習課題（70%）、および課題を基にした発表内容（30%）の合計で評価する。特に発表に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を加え、教員と受講者で半分ずつの比率とする。

【学生の意見等からの気づき】

地理に対する知識の無さを気にする学生が多いが、その対策の一つとして、近年は小テストを実施するようにしたが、その他にも工夫が必要と考えている。また、履修者との対話からさらなる改善を探そうと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できる準備をしておくこと。また、課題で地図への彩色が必要となる関係で色鉛筆（12 色セットのもの）や定規・極細のペンなど作図ができるような道具を留意すること。

【その他の重要事項】

近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席することを求める。また、実習などで欠席した際には証明書を手早く提出すること。それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Acquisition of lesson method using map
2. An understanding of the basic of natural geography (Topography, Climatology and Hydrology).
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.

自然地理学Ⅱ

狩野 真規

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関するテーマを軸として、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。特に受講者による模擬授業を実践することで、教材研究や板書計画などの経験を積むとともに、中学・高校で地理を教えるスキルの獲得・向上を目指す。

【到達目標】

地理の授業に必須となる自然地理学の知識だけではなく、教えるために必要な技能などの獲得を目指す。具体的には文部科学省の学習指導要領の内容を意識した学習指導案の作成から授業の実践を経験し、現場での授業に対処できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には序盤はプリントを配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した講義形式とし、小テストなどの課題を実施する（フィードバックについては、小テストの解答を実施直後の講義内で提示していき、全体に対して行うことを基本とする）。中盤以降は受講者による実践を中心に行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは何か？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および歴史科の学習指導要領における地理について確認する。
第 2 回	自然環境と産業との関わり	農業と気候との対応などから地誌的内容への応用を探る。
第 3 回	造山帯と資源分布	造山運動と資源分布との対応から暗記主体授業からの脱却のための視点を考える。
第 4 回	地形図にみられる地形とその形成	身近な地域でみられる地形について、その形成や地形図上での表記に注目し、地形図の読図に関する知識の獲得とそれらを教材としての使い方を考える。
第 5 回	気候区分について	気候区分とその考え方から教材研究の方法を探る。
第 6 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 7 回	自然地理の授業の実践・その 1	大地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業実践に慣れることに主眼を置く。
第 8 回	自然地理の授業の実践・その 2	地形図に出てくるスケールの地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼を置く。
第 9 回	自然地理の授業の実践・その 3	ケッパンの気候区分についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、内容に対する指導上の留意点を確認していく。
第 10 回	自然地理の授業の実践・その 4	日本の気候についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、生徒の状況（認識力・思考力・学力など）に応じた授業設計の必要性を確認していく。
第 11 回	自然地理を活かした授業の実践・その 1	アメリカ地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、発展的な学習内容を盛り込んだ授業実践を行うことで、それらの学習指導への位置づけを考える。
第 12 回	自然地理を活かした授業の実践・その 2	オーストラリア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計の検討をしていく。

第 13 回 自然地理を活かした授業の実践・その 3 アジア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。

第 14 回 アクティブラーニングを使った授業 地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

序盤では小テストないしは課題を課すので、それに対処できる準備をして欲しい。中盤以降は履修者が主体となるので、模擬授業の準備などが必要となる。特に意識してもらいたいこととして、他人の模擬授業を聞くときは、自分が扱うことを想定した準備をしていくことを挙げたい。なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ 2 時間、復習も 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を留意すること。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論、朝倉書店

水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門 ベレ出版

などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

序盤までの授業で実施する小テストないしは実習課題（40%）、および模擬授業内容（60%）の合計で評価する。特に模擬授業に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業の順については学生からの声を参考とした。また、他者が模擬授業をしているときにも出席する意義づけを考え、履修者同士の評価も成績評価に取り入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使えるようにしておくこと。場合によってはオンライン講義になることもあるので、その際にはインターネットへの常時接続ができる環境を各自で用意する必要があるため、大学の支援などについて各自で確認し、対応することが必要となる。

【その他の重要事項】

近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席をすることを求める。また、実習などで欠席した際には証明書を速やかに提出すること。それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。特に模擬授業が実施できなければ、評価についても変わってくるので、その時には改めてアナウンスをしていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Acquisition of lesson method using map
2. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

地誌 I

山口 隆子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得します。

【到達目標】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させます。出席者にはプリントの配布や Hoppii での資料配布を行います。提出されたリアクションペーパーや課題等はコメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本の自然
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの自然
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの自然
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの自然
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの自然
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の自然
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の自然
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニア・極域の自然
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	大学周辺でのフィールドワーク
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』。古今書院、150p。
井田仁康（2021）：『「地理総合」の授業を創る』。明治図書、163p。
磯井照子編（2018）：『「地理総合」ではじまる地理教育』。古今書院、200p。
千葉県高等学校教育研究会地理部会（2019）：『新しい地理の授業：高校「地理」新時代に向けた提案』。二宮書店、222p。
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論 第 2 版』。朝倉書店、174p。
山口幸男ほか編（2016）：『地理教育研究の新展開』。古今書院、276p。
吉水裕也編著（2019）：『本当は地理が苦手な先生のための中学社会 地理的分野の授業デザイン&実践モデル』。明治図書、149p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。

レポート：50%、小テスト・作業成果物・課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内での作業時間を増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌 I

南 春英

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現代世界を理解する上で欠くことのできない中国について、地誌学の立場から理解を深めます。地域を理解するためには、さまざまな視点から見る必要がありますが、特に本講義では現代中国を理解するために重要な視点に絞って論じます。

【到達目標】

まずは、現代中国に関する基礎知識を習得します。また、中国の地域的広がりや多様性を理解することを目標とします。そして、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていきます。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	中国と日本①	日本と中国の歴史関係について考える
第 3 回	中国の地誌①	自然環境の多様性について考える
第 4 回	中国の地誌②	自然災害について考える
第 5 回	中国の地誌③	経済の歩みと日中経済について考える
第 6 回	中国の地誌④	都市化と課題について考える
第 7 回	中国の地誌⑤	中国の抱える人口問題の現状について考える
第 8 回	中国の地誌⑥	民族と文化の多様性について考える
第 9 回	中国の地誌⑦	自然と人文環境から生まれた食文化について考える
第 10 回	中国の地誌⑧	(DVD) 中国の食文化 (8 大料理)
第 11 回	中国の地誌⑨	中国の教育制度と現状について考える
第 12 回	中国の地誌⑩	中国人の現在の暮らしについて考える
第 13 回	未来の世界像	未来の社会のために～日中関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ 2 時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。読んで欲しい書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていききたい。
可見弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社。
季増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版。
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店。
陳 舜臣・尾崎秀樹（1993）『中国：読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社。
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。
帝国書院編集部（2019）『中学校社会科地図』帝国書院。
帝国書院（2020）『最新基本地図—世界—日本—44 訂版』帝国書院。
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店。
丸川智雄（2013）『現代中国経済』有斐閣アルマ。
矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（50%）とレポート（50%）で行い、両者の合計が 100% です。

テンポの良い授業を目指します。

【学生の意見等からの気づき】

テンポの良い授業を目指します。

【Outline and objectives】

Understand modern China from various perspectives.

地誌Ⅱ

山口 隆子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得します。

【到達目標】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させます。提出されたリアクションペーパーや課題等は、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本の地域ごとの特徴について、食生活を中心に考える。
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニアの国々・極域の特徴について、生活文化面から考える。
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	フィールドワークの実施方法について解説する。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』。古今書院、150p。
 井田仁康（2021）：『「地理総合」の授業を創る』。明治図書、163p。
 確井照子編（2018）：『「地理総合」ではじまる地理教育』。古今書院、200p。
 千葉県高等学校教育研究会地理部会（2019）：『新しい地理の授業：高校「地理」新時代に向けた提案』。二宮書店、222p。
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論 第 2 版』。朝倉書店、174p。
 山口幸男ほか編（2016）：『地理教育研究の新展開』。古今書院、276p。
 吉水裕也編著（2019）：『本当は地理が苦手な先生のための中学社会 地理的分野の授業デザイン&実践モデル』。明治図書、149p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。

レポート：50 %、小テスト・作業成果物・課題：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌Ⅱ

南 春英

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職の科目としても重要な地誌学の基本的な考え方や様々な地域の地誌学的な見方の基礎を培います。中国の「古都」と呼ばれる首都である北京と、「魔都」と呼ばれている中国の経済中心である上海を学習対象とし、その歴史から発展、現状、抱える課題について考えていきます。

【到達目標】

中国の地域的広がりや地域による多様性について理解します。中国の諸地域の中でも、南北を代表している北京と上海を取り上げることで、地域ごとの特徴を正しく理解することを目標とします。特に、「地誌」作成の基礎能力を修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。また、グループごとに特定地域を選び、調べた結果を授業の最後に発表します。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	地誌学とは
第 2 回	北京の地誌①	北京の自然環境と歴史について考える
第 3 回	北京の地誌②	「四合院」と現代住宅事情について考える
第 4 回	北京の地誌③	北京の経済発展とその機能について考える
第 5 回	北京の地誌④	北京市民の生活と文化について考える
第 6 回	北京の地誌⑤	(DVD) 北京の世界遺産 世界遺産の保護意義について考える
第 7 回	上海の地誌①	上海の自然環境と歴史について考える
第 8 回	上海の地誌②	上海の経済発展とその機能について考える
第 9 回	上海の地誌③	中国とアジアの中における上海について考える
第 10 回	上海の地誌④	上海市民の生活と文化について考える
第 11 回	北京と上海の地域特徴①	北京人からみる上海人と上海人からみる北京人について考える
第 12 回	学生による発表①	グループごとに発表する (A と B グループ)
第 13 回	学生による発表②	グループごとに発表する (C と D グループ)
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

北京と上海の基本的な地理については、事前に学習しておいてください。授業と並行してレポート「○○地域の地誌」を作成します。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

岩間一弘ほか（2012）『上海—都市生活の現代史』風響社。
 榎本泰子（2009）『上海—多国籍都市の百年』中央公論新社。
 木之内誠（2011）『上海歴史ガイドマップ』大修館書店。
 櫻井澄夫・人見 豊・森田憲司（2017）『北京を知るための 52 章』明石書店。
 田嶋淳子（2000）『上海—魅せる世界都市』時事通信社。
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。
 村松伸文（1999）『北京-図説：三〇〇〇の悠久都市』河出書房新社。
 矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店。
 楊東平著、趙宏偉・青木まさこ訳（1997）『北京人と上海人-攻防と葛藤の 20 世紀』日本放送出版協会。

【成績評価の方法と基準】

成績は発表（40%）とレポート（60%）で行い、両者の合計が 100% です。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表時には全員分配付資料を印刷してきてください。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.